

令和2年度
第2回上小地区小中学校教科用図書採択研究協議会

日 時 令和2年7月17日（金）
午後1時30分から
場 所 上田市教育委員会
第一会議室

出席者 小山会長（東御市教育長）、沓掛副会長（青木村教育長）、北沢委員（上田市教育長職務代理者）、龍野委員（長和町教育長職務代理者）、峯村委員（上田市教育長）、辰野委員（長和町教育長）、下村委員（東御市教育長職務代理者）、片田委員（青木村教育長職務代理者）、小林和小学校長、田畠第五中学校長、半田上小PTA連合会会长
白井国語科調査研究委員長（東塩田小学校）、金井社会科調査研究委員長（第三中学校）。
長谷数学科調査研究委員長（北御牧中学校）、倉石理科調査研究委員長（丸子北中学校）、
木次音楽科調査研究委員長（和小学校）、上條美術科調査研究委員長（青木中学校）、
竜野技術家庭科調査研究委員長（武石小学校）、塙原保健体育科調査研究委員長（第六中学校）、
栗津原英語科調査研究委員長（第一中学校）、柳原道徳科調査研究委員長（東小学校）
協議会事務局（上田市） 緑川課長、横澤課長補佐、朝日担当幹

○会長 教科研究報告及び教科書の選定についてでありますけれども、各教科の調査研究委員長から調査表をもとに調査研究の結果報告をしていただきます。それに対して質疑、討論を経た上で、調査研究委員会の選定した1種類の教科書について多数決により決定するという手順で進めさせていただきます。可否同数の場合につきましては、協議の経過を勘案した上で、議長が選定するということになりますので、御承知おきをいただきたいと思います。

選定の順番は、お配りした資料2の教科別発表順のとおりでお願いをしたいと思います。目安の時間は、お示ししてありますが、途中で休憩を挟んで約3時間ほどかかるという計算になります。長時間の会議になりますけれども、何とぞよろしく御協力をお願ひいたします。

それでは、国語ですけれども、国語と書写について担当していただきました調査研究委員長お願ひをいたします。

○国語教科責任者 国語及び書写教科書調査研究委員長の臼井と申します。よろしくお願ひします。

まず、国語の教科書ですが、こちらにあります光村図書「国語1から3」を選定させていただきました。選定した理由として、1つ目に、生徒の発達段階に合わせた良質で分かりやすい教材が取り上げられている点が挙げられます。生徒の発達段階に合わせた良質で分かりやすい教材とは、生徒の発達段階に応じて、段階的、系統的に教材が配置され、時季的にもバランスよく構成されていることや、各領域に軽重をつけながら配置されているなど、工夫されている点が挙げられます。

さらに、始めは身近な題材から徐々に生き方や広く社会に関わる題材へと、生徒の言語環境と発達段階に応じて、幅広い分野から学習意欲が喚起されるように工夫されている点が挙げられます。物語や小説においては、1年の教材では、自分と似た年齢、自分と似た境遇や立場の主人公となって物語が進み、共感しながら読み進めることができます。2年生からの教材は、登場人物の人間性や人間を取り巻く社会との関係、現在と過去の往来など、自分の置かれている立場とは違った視点が加わり、より客観的な見方が身につくように工夫されています。

2つ目の理由として、主体的・対話的で深い学びが可能になることが挙げられます。主体的・対話的で深い学びが可能になるとは、何を学ぶのか自覚しながら、意識的にその教材で学ぶことができ、主体的な取組が見込める点が挙げられます。

まず、この巻頭にあります「学習の見通しを持とう」というページでは、1年間の国語学習を見通すことができ、身につける「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」を教材に合わせて簡潔に示してあります。また、単元末の「学習」、こちらの部分になります。このページでは、この教材をどのように学ぶとか、学び方が分かりやすく示され、自分の力で読み深めができるようになっています。しかも、両開き、2ページで全部示されていますので、生徒にとって取り組みやすく視覚的にも受け入れられると思われます。

続いて、日常生活に関連したり、知的好奇心を喚起したりするような問い合わせ基にした言語活動が選定されており、主体的・対話的な学習が進められるように工夫されている点が挙げられます。

さらに、教材の末に、このように広がる読書として読書活動につなげられるように本の紹介が位置づけられていることが挙げられます。本の紹介は、題名、作者名だけではなく、本の表紙そのままの画像で表されています。生徒は知らず知らずの内にそうした本を取り、読み進めることができるのではないかでしょうか。同様に、このようにQRコードで、話す、聞く等の活動が動画で見られるようになっております。教材に関してウェブサイトへ誘う工夫もしております。

理由の3つ目として、新しい時代に必要な国語力が身につくことが考えられます。学習指導要領に示された情報の扱い方について、複数のテキストから情報の質や信頼性を評価吟味できるように工夫されているので、新しい時代に必要な国語力が身につくように考えられます。また、根拠を示しながら自分の考えを伝えられるような力が身につくように、段階的に構成されている点も挙げられます。新しい時代に必要な国語力が身につくことで、日常生活を支える基盤となる語彙力向上のための教材

が多数設定されていることが挙げられます。こちらは一例ですが、このようなマップでの言葉集め、類義語での比較、今と昔の言葉の変化の取上げ等、より多様な語彙の習得活動が可能となっております。さらに、SDGs、持続可能な開発目標に関連する教材が多数取り上げられ、自ら問い合わせを持ち、考えを交流し、深い学びの実現が可能となっていることが挙げられます。

以上の3点が光村図書「国語1から3」を中学校用の国語教材として選定した理由であります。

続いて、書写の教科書に移させていただきます。書写の教科書ですが、光村図書「中学書写1・2・3年」を選定いたしました。選定した1つ目の理由として、まず知識、技能の確実な習得ができることが挙げられます。知識、技能の確実な習得ができるという点で、教科書に完全準拠したこの書写ブックというものが附属品というか、ここでくっついてきます。これ取り外せるのですけれども、これがこの1社だけです。これがありまして、ここでは毛筆のよさを生かして硬筆を学んでいくという、のようなブックになっております。毛筆のよさを生かした硬筆の練習を繰り返すことで、確かな書写力が身につくと考えました。

次に、お手本一つ一つに、先ほどと同じようにQRコードがつけられています。動画で瞬時に筆遣い等を確認することができるような、視覚を通しての技能習得が可能となるように工夫されていることが挙げられます。先ほど紹介した書写ブック、QRコードとともに、教室で扱えなかった場合でも家庭学習等で筆遣い、筆運びを振り返ったりすることが可能となります。生徒の学びに沿った活用ができ、主体的な取組も見込めると考えます。

さらに、書写の手本が2ページ見開きのものが多数あります、ほぼ半紙原寸大で示されています。書き始めの位置や字形の整え方、文字の大きさ、余白の取り方を実感しながら学べることが挙げられます。書写を苦手としている生徒はたくさんいます。上手に書きたいけれども、半紙のどこから書き始めたらいいか、全体のどの場所に書けばバランスよく収まるのかが分かりにくい生徒にとって、大きな手助けになると見えます。

理由の2つ目として、主体的・対話的で深い学びが可能になることが挙げられます。主体的・対話的で深い学びが可能となることについては、学習の進め方が、このような形で「考え方」、「確かめよう」、「生かそう」というように3つのステップで段階的、系統的に示されているので、何をどう学ぶのか、生徒が見通しを持ち、主体的に取り組むことができるよう構成されている点が挙げられます。

こちらの「考え方」では、楷書が行書になるときにどんな変化があるのか考えさせ、「確かめよう」では、実際に毛筆で行書を書いて確かめる。さらに「生かそう」では、硬筆書写に戻すという形でスリーステップを取っております。指導者にとっても教えやすいと考えました。

選んだ理由の3つ目として、生きて働く書写力を身につけることができる考えられます。生きて働く書写力を身につけることのできる理由として、書写で身をつけた技能が日常生活で生かせる

ように、他教科や学校生活、家庭生活で活用できるようなヒントが多様に示されていることや、「日常に役立つ書写」という単元で、手紙の書き方とか宅配便の送り状の書き方、あるいは入学願書の書き方が示されていて、生きて働く書写力が身につくと考えました。

さらに、学習指導要領に示されている豊かな文字文化に親しめるような構成がされていることが挙げられます。こちらにあるのは、「全国文字マップ」というものですが、北海道から沖縄にある有名な施設で実際に使用されている看板の文字が写真で掲載されています。生活の中、日常の中で手書きの味わいを実感することができる考え方です。

以上の3点が光村図書「中学書写1・2・3年」を中学校用の書写教科書として選定させていただいた理由になります。

御清聴ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

ただいま報告をいただきました国語とそれから書写について、御協議をいただいて選定をしてまいりたいと考えますので、御意見、御質問がございましたら挙げていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 では、最初に、質問の前に、結論はある程度結構だと思いますけれども、教科書の内容、光村と東書、これは二重丸と丸の1つだけの違いなのですね。その違いというのは何かということを具体的に説明してもらいたいということが1つです。

それから、もう一つ、書写の方には、QRコードによってウェブコンテンツ、いわゆるデータコンテンツということについて3行書かれてあるのですけれども、他の教科書会社はこの点については同様なものがあるのではないか、この2点です。

以上です。

○国語教科責任者 ありがとうございます。1点目に関わっては、ちょっと私の考えになってしまふのですけれども、やはり国語は光村と東書で迷うところがあります。実際に、東京書籍の方が分かりやすかったりするところもあるのですが、分かりやすくするために、より複雑な情報が入り過ぎているかなというふうに思っております。

光村図書はやることがシンプルというか、これをやるのだよということがきちんと明確に示されているので、子供たちにとっては学習しやすい状態になっているのかなと思います。何より、先ほども申しましたが、ここに載っている教材を毎年見させてもらうのですけれども、やっぱりすばらしいなという感じは、私が東書と比べて光村図書の方を選ぶ理由になります。

2つ目の書写の方ですけれども、デジタルコンテンツについて、2つ、他の出版社も出してあります。ただ、ここまでその字はここを見ればいいよ、その字はここを見ればいいよという形ではなくて、違う出版社によっては、もう最後のところにまとめてあって、こう見るような形になっているので、

子供たちはやっぱりこれはこれという形で、スマホは学校で使えないのですけれども、やってやれば、見えることになっているので、その点では光村図書の方がすぐれているかなというふうに思います。
以上です。

○会長 他にいかがですか。はい、どうぞ。

○委員 お願いします。今の説明をいただきました。それで、主体的に学習に取り組めるためには、やっぱり光村図書がいいと、選定された先生は、光村図書のどの題材、「これは絶対光村でなくては駄目だ」というような題材が入っていましたか。もしあったら1つだけでいいですから教えてください。

教科書、このものが入っていればいいなとか見ていると、いろいろあって迷うところありますよね。でも、全てではなくて1個でいいですから。

○国語教科責任者 実は、私、中学校の経験がなくて、今回これ初めて読ませていただいたのですけれども、私は、読む機会もあるのですけれども、これ一つということで絞ることはできませんが、光村の「小説と物語」が大好きです。これを読むだけで、やはり感受性というか、心が豊かになるというのはすごく強く感じておりますので、その点は推薦というか、御紹介できるかなと思います。

以上です。

○会長 はい、どうぞ、お願いします。

○委員 選定した理由、国語の教科書の方ですが、1の(1)、生徒の発達段階に応じて段階的、系統的に教材が配置され、ここまで分かるのです。時季的にもバランスよくと、これはどういうことですか。

○国語教科責任者 スタートから最後までという順番になってくるのですけれども、これがもう段階を追って見ていただくと、例えばこの話すこと、聞くことになりますと、スタートは、(提示)これは1年生の教科書なのですけれども、6年生との系統、つながりを考えて、まず声の出し方からしっかりやっていこうということがスタートになっておりまして、最後のところが聞き手を意識しようという形で、どんどん年齢とか段階によってこのように深くなっていくというか、そのような形で示されています。

○委員 一番気になるのは時季的という言葉なのだよね。理科の観察教材だったら時季的という言葉使ってもいいと思う。

○国語教科責任者 時季というとちょっと語弊があるかもしれません、一応その時季に使われる言葉というのがあると思いますけれども、それが春と夏と秋と冬が一番分かりやすいところなのですが、その点をちょっと代表しますと、春には春の言葉が中心に出てきたり、夏、秋、冬という形で、その季節に合ったものが、語彙が選定されるような場面もありますので、その点では時季は合っているかなというふうに思っています。

○委員 この言葉ちょっと検討してもらえないかな。

○国語教科責任者 はい。

○委員 それから次、各領域に軽重をつけながらって、軽重ってこれどういうこと。

これ何でかというと、最初の文章なのだから、これをここで、すごくインパクトがあるわけです。軽重というのは、重い方はいいよ、しっかり扱うと、軽いのはどういうことだということなのですか。

○国語教科責任者 やはり国語の教科書の中にもいろいろなものが詰まっておりまして、ちょっと今このコロナ禍を例に挙げますと、やはり重点的に、その先生が教えるものと、時間かけてですね。それから、時間どおりに行うものとか、ちょっと時間をはしょりながらやっていくというものが出てくるのですけれども、それを私は軽重として書かせていただきましたが、本来はあまりいい言葉ではないと思います。

○委員 しっかり扱うところと手を抜くところというふうに捉えてしまうから、この文言でちょっと最初の（1）の部分は、もうちょっと練っていただいた方がいいかなと思います。

以上です。

○国語教科責任者 分かりました。ありがとうございます。

○会長 よろしいですか。他にはありますか。

では私から、今のこの画面のところにちょっと説明があったのですけれども、その声の出し方みたいなのが項目では載っていますよね。子供たちはこれ十分受け止められる、先生がつながなければ駄目ですか。

○国語教科責任者 子供たちは受け止められると思います。ただ、この次のここに出てくる、中に入らないとより具体的には分からぬと思いますが、光村は、前回の教科書で言いますと、この言葉が載っていないくて、ただ印、マークみたいなだけついているやつなのです。東京書籍を見ていただくと分かるのですけれども、東京書籍の方では、同じようなものがあるのですが、このように丸ですね。花みたいなのがついていて、一応横には説明が書いてあるのですけれども、ちょっと子供が、あの花丸はどこのこと言っているのかな、何の力つけるのかなというときには、横に目をズラさなければいけないということがあります。あそこ、ここなのだなというよりは、恐らく光村もここ変えてきて、このようにきちんと、ちょっと短い言葉になってしまふのですけれども、これをやるのだよ、この題材ではこういうことをやるのだよと明示したということは、私は大進歩かなというふうに考えて、より具体的には、教科書の中により子供たちが深く誘えるような形になっているような気がします。

○会長 では、もちろん話すことだから、声の出し方というのは当然言葉として出てくるのだけれども、幾つかのところに、このページに合わせながら声の出し方は出ているけれども、それは子供たち自身も理解できる表になっているという受け止めでいいのだね。

○国語教科責任者 というふうに私は考えております。

○会長 分かりました。

他にはいかがですか。よろしいですよね。

〔発言する者なし〕

○会長 それでは、特にないようありますので、選定の方に移らせていただきます。

国語、書写につきまして、光村図書の教科書を選定するということでよろしいでしょうか。賛成の場合は挙手をお願いいたします。

〔挙手多数〕

○会長 全員の方にお認めをいただきましたので、国語、書写につきましては、光村の教科書を選定するということにいたしますが、よろしくお願ひします。

一つ宿題が出ましたので、ちょっともう一回検討いただきたいと思います。

○国語教科責任者 ありがとうございました。

○会長 御苦労さまでした。

それでは、社会科の関係、お願ひいたします。

○社会教科責任者 これより社会科について発表いたします。よろしくお願ひします。

ご承知のように、社会科は3分野と地図の4つについて審査をさせていただきました。歴史は後に回させていただきます。

最初に、公民から始めたいと思います。

公民分野は、6社の教科書から選定いたしました。最も適した教科書は、東京書籍の「新しい社会公民」です。前回と同じであります。

東京書籍の教科書は、資料が豊富でいろいろな角度から、立場から考えられるように工夫されています。また、導入で扱う資料が学習の途中やまとめの段階でも再度使えるよさがあります。御覧ください。(提示)これは、今子供たちにとって非常に勉強になる部分であります「消費者の権利」という単元でありますが、上のところを見ていただきますと、いろいろな事案が出てきます。この事案や事例の数が他社とは圧倒的に違います。これは、帝国書院になります。(提示)

続けます。教科書の各所に考える、チャレンジ、スキルアップなどというコーナーが配置されており、生徒たちの思考力、判断力、表現力などの育成をしていくこうという工夫が見られます。また、生徒たちのまとめの活動を充実させる方法として、その時間の問題や課題に合わせた思考ができるよう、様々なまとめ方を提案しています。ウェビングやトゥールミン図、クラゲチャートなどがその一例ですが、まとめ方が具体的に紹介されていて、これにより生徒の話し合い活動のアイテムが増えると考えられます。

具体的に示しますと、先生方にはもう当たり前のものなのですが、一番下がウェビングという形になります。これだけなら子供たちは知っているのですが、クラゲチャートというような形・まとめ方の提示は、「このようにまとめていくと相手にわかりやすく伝えられるよ」というようなことを具体的に示してある部分であります。

そのような理由から、今子供たちにつけなければいけない力である話し合い活動とか、自信を持って

話せるようなことの工夫もある東京書籍の教科書がいいのではないかと考えました。

続きまして、地理分野の地図についてお話をさせていただきます。地図は2社の審査をさせていただきました。最も適した教科用の地図は、帝国書院の「中学校社会科 地図」であります。これも前回と同じであります。まずは、この鳥瞰図を御覧ください。このように帝国の鳥瞰図はとても大きく丁寧に書かれています。それに対して東京書籍の鳥瞰図はこのような形になります。違いはすぐに分かると思います。

さらに、今回、帝国はA4判の地図を採用するようになりました。これまでA3判という判でやっていたのですが、地図を大きくすることにより、より見やすくするという工夫があります。さらに、いろんな情報も入れられるというところがあります。そして、何より地図の中の命の中で、地図の他にいろんな統計資料があるのですけれども、統計資料につきまして、帝国はどのようにしているかといいますと、子供たちが分かりやすいように、ピーマンやトマトの分からぬ子供たちはいませんが、工業製品なんかにイラストを入れることで、何のことについて言っているのだということを示しています。さらに、鉱物資源につきましては、写真を入れることによって、あるいは現物の製品の写真を載せることによって、「こういうものだよ」ということを意識させてくれます。しかし、同じページを見ても、東書の方にはイラストがありません。そういう部分で分かりづらいのではないのかなと考えました。

プラス、ここに載せてある資料なのですが、帝国の方が非常に新しい年代のものが載っており、帝国の地図がよいのではないかと判断をさせていただきました。

続いて、教科書の地理についてお話をさせていただきます。教科書は4社を審査いたしました。最も適した教科書は、東京書籍の「新しい社会 地理」でした。これもこれまでと同じであります。東書の教科書というのは、キャラクターの使い方に工夫があります。各単元の導入の際に、キャラクターのやり取りで探求課題を設定して、学習が進んでいくとキャラクターの登場をどんどん控えさせていく、学習の方に移行させていくという工夫をしています。

具体的に申しますと、最初の段階で、これが東書なのですけれども、いろいろなキャラクターが出てきて説明をするのですが、進むことにより、これは人物の絵になるのですが、なくなってしまいます。漫画というイメージから教科書のイメージに入って、どんどん教科書の方に集中をさせていこうと工夫をしています。

対しまして、帝国は、このようにキャラクターが配置されて、必ず吹き出しがついていて、子供たちに考えさせたいことをつぶやいてしまうというところが多く、我々の中では「ちょっとした子供たちのつぶやきを大事に拾っていきたい」と考えているので、「これはいかがなものだろうか」と感じています。

そして、また単元の最後にみんなでチャレンジというところがつくられています。御覧ください。東書は単元の終わりに非常に力を入れていて、発展的に資料を見せながら、用語を押さえさせ、さらに自分たちで対話をしながら話し合いをさせる工夫をして、単元を終わろうとしています。

対しまして、帝国はこれまでどおり、終わりについては知識、理解のまとめ、用語をまとめるために1ページ、その後に考え方とか説明をしようということで半ページ取っているという形で、この力の入れ方もかなり違ってきてているのではないかと判断しています。というようなことで、地理の教科書も東京書籍としました。

最後になりますが、歴史についてお話をさせていただきます。歴史は7社あります。それぞれの教科書に特色や個性がありました。そんな中で、帝国書院と東京書籍の教科書が大変すばらしく、委員会の回数をさらに1回増やしました。その結果、今回は東京書籍の「新しい社会 歴史」を選びました。前回は帝国書院です。

では、どこがどれだけ違うのかというのを見ていただきたいと思います。まず、単元の見開きなのですが、これまで帝国書院を使う際、我々が「非常にいいな」と感じていたことは、単元の最初の見開きのところに、その時代を代表する想像図が配置されていたことです。想像図の中からいろいろ想像して単元の流れを考えていくことで、過去2回、帝国書院が採用されています。

ところが、帝国書院に対して、東書は今回どのようなことをしたかというと、このページにありますように、(提示)想像図は1ページにしてあるのですが、その他に年表を入れたり、その時代を代表するような資料を写真や絵、模型なんかを使って配置したりすることにより、最初の章のつかみのところで子供たちが学びに入っていきやすく、考える部分をつくっています。まとめますと、東書は章の見開きの2ページに想像図だけでなく、年表や章でキーとなる資料の写真や絵が配置されて、そのことで時代を大きく大観していくのではないかと考えました。

2つ目は、これは歴史だけでなく、他の3分野でも言えることなのですが、まとめの活動の仕方が非常にいいなと思っています。Yチャート、Xチャート、Wチャート、ピラミッドストラクチャーと呼ばれるようなまとめ方を説明しています。これも名前が変わっただけで先生方は御存じのことが多いと思うのですが、話し合いをしていく上で、まず自分でどのようにまとめていくのか、主体的に自分で学習をしていくために、いろいろなまとめ方をいろいろリサーチしながら、教えながら、単元が進んでいくようにしています。特に歴史はそれがはっきり出ています。このようなまとめ方をしていくと、子供たちが主体的に学んでいけるのではないかと考えました。

次に、写真の鮮明さや資料の鮮明さについて、お話ししたいと思います。同じ部分のところをお見せいたします。明治維新であります。おなじみの岩倉使節団の部分ですが、帝国書院はセピア色の写真を使っています。そして、岩倉使節団の写真、説明と船が動いていった場所について、軌跡について示しています。それに対して東京書籍は、写真を大きくし、さらにものすごくクリアな写真に変え

できました。同じ図も大きく配置し、より広い範囲で見やすく、子供たちが世界をつかめる工夫、一部ではなくて全体がつかめるように工夫をしてきました。そして、生徒たちが覚えなければならぬ人物なのですが、帝国書院の人物の大きさがこれくらいに対し、東書の人物はこれくらいの形で、同じページなのですけれども、これくらいの写真の大きさに違ひと色が出てきます。

このようなことから、1ページの配置の仕方、あるいは子供たちへのインパクトの与え方、覚えさせ方等も東書の方が勝っているのではないかというような点から、東京書籍を選択した方がよいのではないかという結論になりました。

以上で説明を終わります。

○会長 ありがとうございました。公民、それから地図、地理、歴史、そういう順で4冊分になりますか、御説明をいただきました。

ただいまのお話について、御意見、御質問ございますでしょうか。

はい、お願ひします。

○委員 説明していただいたポイントが大変明確で分かりやすかったです。この書いてある文章を読むだけではなくて、具体的に話し言葉で説明していただいて、とてもよく分かりました。

一つお願ひなのですが、地理ですが、地理のところの一番上のところに、何かもう一個、社会科の地理という教科の本質について、この教科書はいいよというような記述があるといいなと思いますが、それは一発目からキャラクターということが出てくるのです。キャラクターというのは補助ではないかというそういうイメージがあって、2つ目のポツにもキャラクターなのだよ。キャラクター、キャラクター、言っていることは分かるのです。最初の出だしはキャラクターで導入していく、だんだんそのキャラクターがなくなって本質に迫ってくる。それは本当よく分かるのですが、ちょっと偏った見方かもしれないけれども、いきなりキャラクターを持ち出すよりも、もう一個上に何か欲しいのだな。そうすると、これ読む人がどうかと、地理の本質というのはこうか、その点に照らして東書がいいのだなということが分かって、その後キャラクターに入っていくのではないかというふうに思います。

○社会教科責任者 承知しました。ありがとうございます。

○委員 よろしくお願ひします。

○会長 本質的な部分について、まず1行目に触れていただいたらどうかということですけれども、何とかなりそうですか。

○社会教科責任者 はい。

○会長 では、また御検討いただきたいと思います。

他にいかがですか。

はい、お願ひします。

○委員 最近の社会科というか、知識の切り売りではなくて、資料からいかに読み取って、子供たち

に考えさせていくかというそういう社会科の方法に流れてきていると思うのですが、大きさとか見やすさというのはよく分かったのですけれども、例えば東書の方が考えさせる資料になっている。そういう資料自体の違いはあるのかどうか、その辺もし分かったら具体的に教えていただけないとありがたいなと思います。

○社会教科責任者 やはり委員の御指摘のように、東書と帝国というのは、非常にその辺がとてもうまくできている教科書だなと思っています。どちらも本当に甲乙つけがたくて、両方ともそういう部分はあります。他社と比べようにならないぐらいしっかり考えてあって、この資料については「どこが」とすぐには答えられないところは、大変不勉強で申し訳ないのですけれども、そのとおりであります。申し訳ありません。

○委員 変なこと言うようですが、東書の方が、先ほどの国語もそうだったのですけれども、情報量が多い。どの教科にわたっても何かそういう傾向があるのですけれども、それが果たして社会科としてたくさん資料があるのがいいのか、それともすっきりしている資料から考えさせる方がいいのか、両方の考え方があると思うのですけれども、選定する方とすればどういう考えでいたのかなと。

○社会教科責任者 今回から社会科は「山川」という高校で使う出版社が入ってきました。本当に字ばかりで、しかもものすごい情報が多くて、しかしその情報というのは社会科の好きな子にはもうたまらないぐらいいい教科書なのです。東書と帝国を比べた場合、やはり東書よりも帝国の方が、やや文字数が多いです。内容についても教師サイドから言うとマニアックと言いますか、少し難しい玄人好みのものが帝国だなという感じなっています。

そんなところから考えると、私は帝国よりも東書の方が全ての面でしっかりと網羅ができますので、子供たちにとっては考える量としてもいいのではないのかなと考えます。

○委員 ありがとうございました。

○会長 今のもし、ごめんなさい。私もちょっと全部頭に入っているわけではないのだけれども、資料から考えさせる、そういう学習につなげるためのそのよさ、今のように文字が多過ぎても読まないというのではなくて、逆に難しさがあるし、やっぱり適量というのかな、子供たちの発達に応じた字数、あるいは説明の文になっているあたりとか、もしその辺もちょっと加えていただければいいのかなとちょっとと思いました。

はい、どうぞお願ひします。

○委員 すみません。教科責任者の先生とは一緒に中学でやった者です。

私のときに、今、甲乙つけがたいと言ったけれども、東書から帝国に替わって、私は帝国で終わつたのです。最近、実は6月、7月と地元の中学校にちょっと支援をしている関係で、懐かしくて帝国書院の歴史を見させていただきました。今回、多分英語の教科書とこの歴史だけが前回と出版社を替えるということで、非常に注目していたのですけれども、選定に苦労されたのも分かりましたので、歴史の調査表のIを見ると、帝国と東書の違いの丸か二重丸は、2番の生徒の学習活動への配慮の(4)、

そこに関わって帝国は丸だけで、東書は二重丸なのです。調査研究委員会の皆さんには、どうして適當と認めたかというと、調査表のⅡのページの4番を見ると、どうも東書の方が地域の素材といいますか、地域の歴史を取り上げているページがあって、さらに地域素材の学び方の視点が示されているのだと、帝国はそれではちょっと二重丸になれなかったという、今教科責任者の先生の御提案も本当によく分かりました。でもこの資料からすると、そこに一番違いがあったのかなという、そのところで本当に微妙だけれども、東書を選んだのかなというふうに思えたのですけれども、今ちょっとこの違いについてお話がなかったのかなと思いますけれども。

○社会教科責任者 ありがとうございます。

○会長 ちょっと参考にしていただいて、状況に応じては、またちょっと文言の中にも加えていただければ、しっかりしてくるかなというふうに思いますけれども、いいですか。

他にいかがですか。

はい、お願いします。

○委員 説明は分かりやすかったのですけれども、文章が内容的に分かりにくいところ幾つかあるので言いますので、最初の地理ですけれども、キャラクターのことは教育長さんが言ったとおりですけれども、探求課題というのがあります、今探求という言葉を使っていますけれども、追求がいいのか探求なのかどうですかね。

それから、公民のところも、例えば1、2行目、習得すべき知識をわかりやすく解説しており、思考を深める問い合わせや豊富な資料から、多様な切り口で学習ができるように配慮されているというのだけれども、主語が抜けているのだよ。これは、単元が配慮されているのか、題材がとか、そういう主語が入るでしょう。2つ目のポツ、「また、導入用資料など」って、導入用って最初でしょう。と言っているのに、学習の途中やまとめでも活用できる。何を言っているのかよく意味が分からぬ。導入用資料のことを言っているのに、何で途中で、導入用資料などと言っているのか、こういうのをね。もっと明快で話し言葉のとおり、文章もきっちり書いてもらいたい。

○社会教科責任者 承知しました。ありがとうございます。

○会長 よろしいですか。

○社会教科責任者 はい。

○会長 ありがとうございます。

それでは、社会科の関係でありますけれども、地理、歴史、公民については東京書籍、そして地図については帝国書院ということで説明いただきました。今お伝えしました教科書を選定するということでおろしいでしょうか。賛成の方はすみません、挙手をいただきたいと思います。

〔挙手全員〕

○会長 全員にいただきました。ありがとうございます。

○社会教科責任者 どうも御指導ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

それでは、数学に関わって御説明をお願いいたします。

○数学教科責任者 よろしくお願ひいたします。私たち数学の委員会では、株式会社新興出版社啓林館「未来へひろがる 数学」を選定いたしました。数学のページをお開きください。

それでは、選定理由について説明をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

資料1の調査表を御覧ください。よろしいでしょうか。各観点の詳細につきましては、資料2、適当と認めた理由にまとめてございます。二重丸が多くついたのは、啓林館、そして東京書籍でありました。この2社については、全国の中でもやはりシェアの大きい2社であります。二重丸の数で申し上げますと、東京書籍が10、啓林館が全て二重丸がついております。

それでは、委員会で啓林館を選定した理由の説明に入りたいと思います。1枚めくっていただきて、一番最後のところになりますが、上記発行者の教科書を選定した理由を御覧ください。資料に沿って御説明申し上げます。7社各社とも生徒の実態に応じて主体的に学習が進められるように配慮がなされておりました。

その中でも啓林館を選定した主な理由は、8点ございます。その8点について説明申し上げます。1点目です。小中の系統性をどのように重視しているかどうかに着目いたしました。上小地区の小学校では、現在、啓林館の算数の教科書を選定しております。その点も啓林館を選定した理由の一つとはなっています。しかし、中学の教科書だけを見てみても、「振り返り」、「広げよう」、「算数を振り返ろう」などによって、小学校の内容も含めた既習事項を確認しながら、新しい内容に取り組めるよう配慮がされておりました。この点については、学校図書や大日本図書、数研出版なども同様な配慮がされていると委員会でも話題に上がりました。

2点目、単元の導入、子供たちの興味・関心を引きつける大事なところであります。単元の導入についての比較です。他の6社も同様の配慮がなされていましたが、日常生活や社会の事象などと関連づけて数学が様々なところで有用であることを示し、生徒が主体的に取り組むように配慮がされていました。また、啓林館では、他の教科と横のつながりにも配慮されている点が委員会でも高く評価されておりました。

3点目に参ります。今度は、導入ではなくて単元の最後、復習や定着についての部分についても比較をさせていただきました。東京書籍や大日本図書、日本文教出版さんも学習内容の定着により配慮した章末問題などの構成となっていましたが、しかし啓林館は、「振り返り」や「もっと練習しよう」といった課題を配置することにより、復習や定着に対しては同様の配慮がなされた上で、「さらに学びを確かめよう」という問題を配置し、(提示)このページになります。要は章末問題なのですが、見えますでしょうか。「学びを確かめよう」という問題を配置し、その問題と関連するページが明記されて

おり、この問題が分からなければそこに戻りなさいと明記されており、分からなければすぐに振り返ることができるよう編集され、さらにはチェック欄、(提示)ここに小さい四角があるのですが、チェック欄を設けることにより、教師による評価だけでなく、生徒たちが自ら自分で自分を評価できるような配慮がされていました。他者との対話だけではなく、自分自身との対話も大切にするようにとの意図が感じられました。

4点目に参ります。深い学びへの配慮についてです。東京書籍や大日本図書、教育出版も同様に配慮されていたところがありますが、啓林館では要所要所に「はてなマーク」が配置され、主体的に問題を見出しながら、さらに広めたり深めたりする視点が明確に示されておりました。また、友の意見を聞いて、互いに深めていくことができるよう、説明し合う場面を多く取り入れてあり、対話的な活動が入るよう配慮された部分が多く箇所で設定をされました。

5点目に参ります。タブレットの導入が今後進んでいく見通しとなっていました。よって、ICTの活用との関連性についても検討をさせていただきました。東京書籍や日本文教出版なども配慮がされていましたが、啓林館では1、2、3学年合わせて164か所ものQRコードがあり、(提示)御覧になれますか。垂線の作図というところです。ここにQRコードがあるのですが、これ私のスマホなのですが、ちょっとお時間をください。小さくて見えにくいのですが、動いているのが分かりますか。子供たちが実際コンパスで垂線を作図するときに、こういうふうに描けばいいのだよ、と動画での支援がされています。このような形にQRコードを見て、子供たちが机の上で自分で見ることができるというそういう設定になっています。

また、これは作図の問題でしたが、幾何分野、図形ですね。幾何分野の視覚教材や式変形の過程、それからグラフの書き方、そういったところも含めて全てで164か所QRコードが、啓林館の教科書には配置されておりました。

6点目に移ります。発展的な内容について既習事項を生かしながら問題解決に向かう態度を育てるとする部分についても比較をいたしました。数学的な見方・考え方を育てる課題に繰り返し触れられるような配慮が東京書籍や数研出版、日本文教出版でもなされていましたが、啓林館ではさらに「虫眼鏡マーク」、(提示)この一番下になります。これが、例えばこの横のページにもほぼ全ページにこの「虫眼鏡マーク」がありまして、この「虫眼鏡マーク」を配置して、授業の中で知らず知らずのうちに触れた見方・考え方を振り返ることができるような配慮もされておりました。

7点目に移りたいと思います。新しい内容に対する配慮についての比較結果です。次年度より新学習指導要領完全実施になります。新しい学習内容への配慮がどの程度なされているかを検討させていただきました。数学では、統計分野の範囲がやや広がりました。啓林館では他の6社に比べ、より丁寧に扱っていると委員の中でも話題にあがりました。具体的には、統計分野における思考の流れをPPDACサイクルと整理して、PPDACというのはPDCAサイクルとはちょっと違いまして、統計の分野のサイクルになるのですが、PPDACのPはプロブレム、問題です。次のPがプランです。

そして、Dがデータ、統計ですのでデータが与えられるので、そのデータを処理していくと、分析、
ナルシスのAで、最後のCはコンクルージョン、結論ということです。PPDACといった流れで
処理し、思考するように配慮がされていました。

さらに、分析を進める過程で、物事を批判的に考察する力も育てようとしている点には、これから
の社会を生き抜く力を育てようとする啓林館の強い意図を感じるという意見が委員会の中でも出され
ていました。

最後になります。8点目です。教科書としての使いやすさの部分についてです。啓林館を含めどの
教科書も配色やUDフォント、カラーユニバーサルデザインの観点から、色だけで判断する問題を避
けるなどの工夫がされておりました。現在、全県で使用している教科書も啓林館です。本冊と分冊に
現在の教科書は二分化されていました。正直、現在の教科書は使いにくさもありました。しかし、今
回の啓林館の教科書は1冊に統合され、表表紙横開きと裏表紙縦開きの二部構成となり、(提示)つまり普通なら教科書をこうやって使っていく、このように普通に見ていくのですが、裏から見ると今度
はこういう教科書になって、確認の問題は、これが現在の教科書は2冊に分かれていますが、実際私も扱
ってきたのですが、こっちの方を忘れてしまったとか持ってきていないとか、そういう生徒が多くあ
るもので、非常に使いにくいなど、いい問題が多く載っているのに残念だなと思っていたところ、こ
のように1冊に合本していただいたので、扱いやすいだろうなということは感じております。個に応
じてバランスよく学習が進められるように配慮がされていました。

以上が啓林館を選定した主な8つの理由です。

また、補足になりますが、現在長野県は、全地区で啓林館の教科書を選定しています。実は、私自身、前回、東信に戻ってくる前は、啓林館以外の教科書を選定した地区がありました、そこに異動し
たことがありました。啓林館と他社とでは単元の配置がやや違うことから、授業の進め方に戸惑いを
覚えたことを記憶しています。全県で異動のある本県では、扱いやすさという点も含めて啓林館がい
いのではないかというような意見も委員会の中では出されました。

以上で、数学科からの説明を終わります。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

それでは、数学について御説明いただきましたので、御意見、御質問いただければありがたいと思
いますが、いかがでしょう。

それでは、お願ひします。

○委員 ありがとうございました。結論の件に関して、個人的にもいいと思いますけれども、まとめ
のところに書いてある⑦番のところ、統計分野ではきちんと説明していただきましたけれども、物事
を批判的に考察する力というのは、この左側のページのどこの部分に当たる、どの項目に当たります
か、質問が1点。

それから、その上の⑥番のところに虫眼鏡があって、数学的な見方・考え方を改めて振り返ること

ができるとあるのだけれども、大体いつもこういうのに書くときは数学的な見方・考え方での項目が大体1行はあるのだね。それがなくて改めてというふうに書いたのは、これは意図がよく分からぬ。この2点について説明してください。

○会長 よろしいですか。

○数学教科責任者 承知いたしました。PPDACのことについて細かく触れた箇所はございません。

○委員 聞いているのは、物事を批判的に考察する力というのは、社会科とかそういう教科なら分かるのだけれども、数学の分野でこのことをあえて文字にしたのはどういう意図があるのですか。または、左側にいればどこの項目に当たるのですか、この物事を批判的に考察する力って。数学の教科書であるのに、この言葉が必要なのですかということを聞いています。

○数学教科責任者 それでは、お答えいたします。正直申し上げて、この批判的に考えるという言葉は観点には載っておりませんもので、文言化はされておりません。ただ、委員会の中で出た話、統計の分野というのはデータで調べると、データを処理するときに、平均、よくこのクラスの平均点というのですが、実はそれ以外に中央値と最頻値というのがあります。代表値を取っていくのが、平均値しか子供たちが知らないところで、実はその他の2つも代表値というのがあって、どこを代表値に取る、だからこのクラスはできるのだよって、例えばテストの平均点を見せたときに、なったときに、でも違うかもしれないよねと、平均点は低いのだけれども、ちょっとあまり点数が取れない子が大勢いるからこのクラスができないというのは早いのではないかというそういう数学的な言い方をすれば、統計分野の批判的な物事の考え方につながるのではないかという意図が啓林館の教科書からは感じられました。

○委員 今の説明はデータ処理の一例を挙げればそのとおりだとは思うのだけれども、表現はちょっと考えてもらってください。

もう一つ。

○数学教科責任者 虫眼鏡の部分についてですが、……

○委員 虫眼鏡のところをあえて用いなくても、教科書の内容の構成の分野で数学的な見方・考え方を啓林館の方だというのは普通、一般的なこういうまとめには1行入るべきものだと思うのだけれども、なぜ改めてここでわざわざ虫眼鏡のところで⑥番という項目を取っているのかということです。言っている意味分かりますか。

○数学教科責任者 はい、分かります。この虫眼鏡のこの文章がこの中に入っていてもいいのではないかということですよね。

○委員 要するに教科書の構成として、数学の先生たちはみんな数学的な見方・考え方ということを常に言うではないですか、研究会とかどこでも。だったら、その項目であればいいのに、あえて改めて虫眼鏡のコーナーで取り出しているのはなぜかということなのですよね。聞いている意味は分かりますか。

○数学教科責任者 啓林館に直接問い合わせたわけではないのですが、委員会の中で出たのは、やはりこれを中に入れてしまうと、考え方的なものを最初から教え込んでしまう。一通り学んできて学んでき、最後のところまで行ったときに、ああこの考え方を使ったのだということが再確認されて、知らず知らずのうちに発展的な内容に触れていたのだなということを考えさせる、そんな意図があるのではという話に委員会の中ではなりました。よろしいでしょうか。

○委員 ちょっと一つお願ひします。

○会長 はい、どうぞお願ひします。

○委員 先生、とてもいい説明していただきて、私もこういう教科書で勉強したいなと思った。私も数学や理科は好きなのですけれども、何で今の子供たち数学でうんとういうふうに差がついてしまうのかなと思って、いつもいつも思うのです。

③、④、⑥というようないいふうにやっているのに、何でそんなに数学って差がついてしまうのだろう、どうしてなのだろうと、いつもいつも思っているのですが、先生は、この啓林館の教科書を使えばそういう落ちこぼれはつくらないだろうと考えません。どうでしょう。どういうところで子供たちが数学嫌いになってしまふのだろうか。

○数学教科責任者 永遠の悩みに関するご指摘、ありがとうございました。おっしゃられるとおりです。やはり委員会の中でもどうすれば落ちこぼれというのですか、こぼれていく子供を減らすことができるのか、皆無にすることができるのかという話題も上がりしました。なので、例えば数研出版という、チャート式という問題をつくっている会社なのですけれども、あの教科書が、言い方が適切かどうか分からぬのですが、ややマニアックというか、委員会にいる者たちはみんな数学科なので、数研もいいねと、何か事あるごとに出てくるのですが、ただでもやはり数学が必ずしも小学校の頃から得意であった子たちばかりが授業に参加するわけではないのでということでありました。お答えにはなっていないのですが、そういうことをなるべく振り返りながら、前に戻りながら、このとき勉強したのだということを学びながらできるように構成されているのが啓林館ではないかという結論に至り、あとは使い手の問題かなとも思いながら、日々精進してまいります。

○委員 よろしくお願ひします。

○会長 よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○会長 それでは、先ほどちょっと話題提供がありましたように、6番の改めてという言葉、それから7番の物事を批判的にという言葉、この辺のところについて、表現についてもし工夫できるようだったら修正をお願いしたいと思いますけれども、よろしいですか。

○数学教科責任者 はい、承知いたしました。

○会長 それでは、数学につきまして、啓林館の教科書を選定するということでよろしいでしょうか。

賛成の方は挙手をお願いしたいと思います。

〔挙手全員〕

○会長 全員の皆さんに手を挙げていただきました。ありがとうございます。

では、数学は啓林館の教科書を選定するということで決めさせていただきます。

御苦労さまでございます。

それでは、理科について御説明をお願いいたします。

○理科教科責任者 失礼いたします。

○会長 お願いします。

○理科教科責任者 よろしくお願いします。では、理科の方を進めさせていただきます。

理科では、まず教科書の選定に当たって、一番注目したのは、安心・安全という観点からです。実験を行う上で安全に取り組める内容であるか、それからそういった配慮がなされているかといった点に最も注目して、教科書を見ていきました。

適当と認められた理由の2の(4)、ここが一番注目した点ですが、どの出版社も安全に配慮されていて、注意喚起をされていると判断して、ここでは差がつけられないと判断しました。

次に、全ての生徒がこの教科書を使ったときに、目に飛び込んできたときに、図や写真、そういったイラスト、文字数、そういったものが全ての生徒が見たときに分かりやすく、読みやすいものであるかというところに注目しました。

適当と認められた理由の中では、2番の(5)、そういったところに注目しました。ここでは、啓林館と東京書籍が非常に写真の量、文字数、配色、そういったところもパターン化されていて、非常に見やすいなどと判断したところです。

次に、今度は追究過程です。生徒が追究をしていく上で、そのパターン化されて、今何をやっているのだということが分かるような教科書の配列になっているかどうか、そういったところも見ました。適当と認められた理由の2の(2)、(3)のところに注目いたしました。

そうしたところ、東京書籍は教科書が新たに縦長になっておりまして、今までではページをまたいで実験・観察の説明とかがあったのですが、1ページに実験・観察の方法等を集約して、今このページでは実験・観察の方法を説明しているのだと、その前段階では、今はまとめのページだよというのが非常に明確であって、追究過程がパターン化されていて、非常に生徒にとって学びやすいというところで、特に東京書籍がいいのではないかとなりました。

結果ですが、最後のページに書いてあるように、東京書籍を他社に比べて優れていると判断し、選定させていただきました。

以上です。

○会長 ありがとうございました。

それでは、理科に関わりまして御質問、御意見等ございましたらお願ひします。

○委員 結論はこれでいいと思いますけれども、先ほどの数学科の説明のところでは、QRコードと、要するにデジタルコンテンツ、これから的是非ICTについて非常に明快に書かれてあるのです。理科の教科書にもそういうものがどの教科書にもICTというのについてはついているはずなのです。そのことについて全く触れられていない。

○理科教科責任者 QRコードに関しては、ICTに関してそれぞれの業者で比較をしてみましたが、結局は教科書の部分で、教科書の内容に沿って掲載されていますので、一番は教科書の内容を基に決めさせていただきました。デジタル教科書の内容の差ではなくて、教科書という部分で決めさせていただきました。

○委員 ということは、だからそういうデジタルコンテンツは、それは教科書ではないから書かなかつたということですか。

○理科教科責任者 そうです。

○委員 できれば、さっきの書写とか、先ほどの数学とか、これでは教科書のその文字、これは教科書ではないというふうに定義されているから、それはそういう説明もあるかもしれないけれども、子供の立場になって考えれば、そういう項目についてもやはりどこか1行とか2行、私は扱うべきだと思う、今後。

○理科教科責任者 はい、分かりました。ありがとうございます。

○会長 これもう一回修正利くのですよね。だから、今のいただいた声も検討して、副代表とちょっと、全員が集まるわけにはいかないと思うけれども、相談して検討していただいたらどうでしょう。

○理科教科責任者 はい、承知しました。

○会長 私の方からちょっと一つお願ひします。

東京書籍の調査表の3の(5)挿絵、写真、図表等が丸になっています。それで、次のページの今説明していただいた選定した理由の今の⑤、主体的で対話的な深い学びができるよう追究過程が工夫され、図や写真、イラストを用いて、生徒が意欲的に学べるように工夫しているとありますが、図や写真、イラストという言葉がこの挿絵とか写真に当てはまるのかなと思って見て、これは指導に生かせるということは、子供たちが勉強していく中で十分使い切れるという意味合いだとすれば、丸ではなくて二重丸になるのかなとちょっと思ったのですが、そこはどうでしょう。

○理科教科責任者 ここでは、その理由には書いてあるのですが、指導に生かすという部分からしますと、大日本図書、啓林館の方が非常に図や写真の部分がよりよかったですと思うのですが、東京書籍も全く悪いわけではなく、指導には生かせると思います。特によかったのは、こちらかなということです。

○会長 そういう意味でね。別に全部二重丸にしろということではないのだけれども、文言からすると、こちらの文言と何かちょっとダブりが感じられたもので、そうすれば丸ではなくて、むしろ二重丸になってくるのかと思ったもので質問してみました。皆さんのお考へでいいと思いますけれども、

それは承知しました。

他にいかがですか。

○委員 ①の縦長の教科書というのは、普通の教科書よりも長くなつたということですか。

○理科教科責任者 そうです。

○委員 そういうふうに書かないと、今まで横長だったのが、この言葉の問題です。

○理科教科責任者 はい、分かりました。

○委員 ここの表現の、今まで教科書は縦長が当たり前だけれども……

○理科教科責任者 より伸びたという。

○委員 そのように書いてください。

○理科教科責任者 はい、分かりました。

○委員 より伸びたことによって内容が充実したのだというような言い方をしてもらわないと、読む人がちょっと戸惑うね。

それから、④の追究過程がパターン化され、パターン化というのはいい言葉だろうか分からぬですね。だから、本当にその一つ一つの教材で子供たちが多様な追究をしていかなければいけないのに何でパターン化すると、そこに一つの疑問があるのです。ここ文言を変えれば行けるのか。それとも、パターン化だけに注目して東書を選んだのかというあたりが分からぬもので、そこら辺どうしたらいいかなと思います。

○理科教科責任者 学びの追究、学びの多様化はあるのですが、その見通しを持つという部分で、今何をやっているのかというのを、理科なんかは今までの振り返りから新たな問い合わせが生まれて、予想して、考えを持っていくという、そういった追究過程ですね、それがこのパターン化という文言ですが、パターン化という文言はちょっと考えます。

○委員 ちょっと検討してください。

○理科教科責任者 分かりました。

○委員 これ、何だ、授業をパターン化しているのかといって誤解されてしまう。

○理科教科責任者 はい。

○委員 使わない方がいいですね。

○理科教科責任者 はい、分かりました。

○会長 いいですか。

　　はい、どうぞ。

○委員 ちょっと説明が雑駁過ぎてしまって、具体的な部分が見えなくて分かりづらい部分があるのですが、私も理科の教科書を興味を持って読ませていただいたのですが、特に東書の特徴的なところは、例えば主体的・対話的、深い学びの対話的な部分をイラストを上手に使って、今までにないような展開していますよね。

○理科教科責任者 そうですね。

○委員 ああいうようなことをしっかりと書いてあげると、そういうことが見えてくるのだけれども、この説明だと雑駁過ぎてしまって、ちょっと分かりづらいというか、説得力が弱いというか、そんなような気がします。内容的なものにも一切触れられていない。先ほど言った追究過程がパターン化ではなくて、きっと様々なやり方をここに示しているのだと思うのですよね。決して一つのパターン化にはなっていないので、ぜひ先生たちが読んで、具体的な部分があるので、内容をもうちょっと具体的に書いた方がいいのかな、雑駁過ぎてしまって読んだ方がどこがどうなのかというのが見えないかなと思いました。

○理科教科責任者 はい、承知しました。

○会長 はい、どうぞ。

○委員 今のところで、教育長さんが言ったことと重なりますけれども、例えば②番の文字のサイズ数など、これをわざわざここに書きますか。東書の教科書の文字のサイズが一番適切で、あとは小さくて見えないとか、そんな差異はないと思う。もう少し内容的に、まとめるのは、もう少しこの内容を工夫してもらいたいと思います。結論はこれで東書でいいのですけれども、もちろん当然。

○理科教科責任者 承知しました。

○会長 理科を担当する先生方の理科的な意味合いをしっかりと出してもらって、文言を整理するということでいいですか。

○理科教科責任者 はい。

○会長 よろしいですか。

それでは、理科につきましては、東京書籍の教科書を選定するということでよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いいたします。

〔挙手全員〕

○会長 全員挙手をいただきました。ありがとうございます。

では、理科は東京書籍の教科書を選定するということで決めさせていただきます。ありがとうございます。

次に、音楽について説明をお願いします。

○音楽・器楽教科責任者 それでは、中学校音楽の教科書選定理由について説明させていただきます。

音楽は、教育芸術社と教育出版の2社がございます。委員5名で、1つ目、構成、2つ目、教材のよさ、3つ目、誰にでも学びやすい工夫がされているかの観点について、特に生徒の多様化、ユニバーサルデザインという観点から、3つ目の学びやすさを大事に、2社について検討させていただきました。どちらもそれぞれのよさがございますが、委員会では、一般、器楽とともに教育芸術社が優れた結果となりました。

では、その理由について説明させていただきます。一般についてですが、1つ目の構成は、3年間の学習内容が学習指導要領に示されている知識、技能、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力、人間性に教材を関連させながら、学年ごとに系統的にバランスよく構成されております。

また、小学校6年生と中学1年生の学習内容では、スムーズな接続が図られております。そして、日本の音楽に重きを置き、アジアや世界の音楽についても学ぶことができるよう構成されています。さらに、音楽と社会、生活、文化などとの関わりを学ぶことができます。例えばSDGs、震災復興支援、著作権などです。また、道徳教育や環境教育、人権教育などの他教科、他教育の学びも行うことができます。

2つ目の教材のよさにつきましては、各教材に学習目標、学習活動、音楽を形づくっている要素が示されております。そして、主体的・対話的で深い学びを実現するために、深めよう音楽という教材が盛り込まれております。この深めよう音楽は、例えば鑑賞では旋律の特徴をワークシートに記入したり、歌唱ではリズムに注目して歌うことで、旋律の重なり方の違いなどを感じ取ったことをもとに、友だちと意見交換したりしながら表現の工夫ができるようになっております。

また、教科書の様々なところでキャラクターを登場させています。その吹き出しは活動のヒントになつていて、友だちとの学び合いでの質の高さを狙うことができます。さらに、学習目標に到達するためのヒントにもなっております。そして、中学生に寄り添った歌詞の新曲も盛り込まれております。また、巻頭ページでは、各界の方から中学生に向けたメッセージも掲載されております。

3つ目の学びやすさにつきましては、至るところにその配慮が感じられます。全体的に美しく、ルビも多く、写真も多く見やすいということです。例えば、表示する場所を同じところに統一する、文字のフォントを変える、余白を設けるです。鑑賞においては楽譜を色づけすることで、着目してほしい旋律を目で追いやすくしてあります。

さらに、学習目標を1曲に対して1つ据えることを3年間で通しています。そのため何を学ぶのかが非常に明確になっております。

続きまして、器楽について説明させていただきます。1つ目の構成につきましては、8つの楽器が盛り込まれております。多くの中学校で扱う楽器、リコーダー、ギター、琴が教科書の最初の方に掲載されております。また、各楽器の学習内容の構成が楽器の紹介、名称、奏法、曲という統一された流れになっております。そのため、同じパターンで学ぶことができる工夫がなされております。

2つ目の教材のよさにつきましては、それぞれの楽器の中に掲載されている曲が非常にスモールステップで学ぶことができるものに工夫されております。曲の音符も細かいものでも8分音符までに配慮されております。そのために譜を読むことだけに集中するのではなく、やはりその楽器の奏法、そしてまずは音を出すこと、そういう学習に集中して取り組めるように工夫しております。また、音楽の一般と同様に、深めよう音楽という教材が盛り込まれております。そこではアーティキュレ

ーションやパートの役割などを協同的に学ぶことができるよう工夫されております。

3つ目の学びやすさにつきましては、一般の教科書と同様のよさがございます。器楽独自としてのよさの中に、アルトリコーダーにつきましては、ソプラノリコーダーの楽譜を掲載しており、個々に応じた学習が展開できるように工夫されております。また、楽器に関する写真、資料も大変豊富です。奏法を示した写真なのですが、学習者側からのアングルになっております。この点はとてもよいところだと思います。

そして、楽器や演奏形態などに関する資料が多く、鑑賞の紹介もあり、まずはその楽器の音色を聞いて、興味・関心を持って学習を進めることができるよう工夫されております。

以上が教育芸術社が優れたと考えた理由です。よろしくお願ひいたします。

○会長 ありがとうございました。

それでは、中学の音楽と器楽ということで選んでいただきましたけれども、質問や御意見ございましたらお願ひいたします。

○委員 音楽とか美術とか保健体育は、生涯学習につながるのです。生涯にわたって音楽を愛し続けるような心を育てていかないと、それも楽しく関わっていく。この文章を読ませてもらうと、非常に理屈っぽくて、音楽嫌いになってしまうようだよね。何か情的なもので判断するような、県が示した採点基準観点項目の中にそれがないからだけれども、個人的にはやっぱり楽しく取り組めるような内容はこっちの教科書ではないかなとかという点はないですか。

○会長 いいですか、説明していただいても。

○音楽・器楽教科責任者 1年生の教科書ですが、まず表紙を広げた巻頭ページには、(提示)このような写真が大きく掲載されております。(提示)野村萬斎さんの写真です。そして、右側のページに、中学生に向けたメッセージが載っております。「分からぬということはとても大事なことであると、分からぬことから分かることにつながる」というような、メッセージが書かれております。単に技能だけを習得するだけにとどまらず、教科書の中には他にも楽しめる工夫があります。例えば小学校からのつながりの一つとして盛り込まれているリズムゲームですが、横にリズムをつくっていくことで、1小節のリズムができる、こんな工夫もされております。

また、器楽のギターの学習では、最初のページに中学生がだんだん興味をもつであろうフォークギター、エレキギターの紹介もされております。

和楽器では、同年代の中学生の活動する写真やメッセージも掲載されておりまして、音楽の幅も広がっていくのではないかと思われます。

他にも3年生の教科書では、ポピュラー音楽のジャンルということで、これは海外編になっております。様々な音楽にも親しんでいけるように紹介がされております。

また、日本編では、ジャズや歌謡曲やJポップも紹介もされています。

こんなことでお答えになったでしょうか。

○会長 要するに学ぶジャンルがいっぱいあると、だから楽しく学べると、それぞれの興味に応じて関わっていける工夫がされている表現を文章の中に入れるといいかな。

○音楽・器楽教科責任者 ありがとうございます。

○会長 他にどうぞ。はい、どうぞ。

○委員 教育芸術社、音楽一般の教科書を選定した理由の中ほどより少し下に教材のよさ「中学生の心情に寄り添った新曲が掲載され、自分と重ねながら歌詞の意味を考えて学習できるように工夫されている」と、例えばどんな曲が入っているのでしょうか。その次の共通教材に「心の歌、歌い継ごう日本の歌、日本の歌のよさを感じ取る」というそういうところでやっぱりこの教芸の教科書いいなと私は思っているのですが、例えばお分かりでしたら教えてください。

中学生が学芸祭で、あるいはクラス合唱やる歌なんかはとてもいい歌を選定しているのですけれども、教科書にはない曲かしらね。

○音楽・器楽教科責任者 (提示) これは新曲です。ほかにも「その先へ」とか「君は君でいい」、これは「友達の友達」という1年生に掲載されている曲ですが、友情や信頼であったり、自分らしく生きていけばいいという内容が新曲となって盛り込まれております。

続きまして、日本の曲についてですが、例えば「浜辺の歌」です。教科書をまず広げますと、(提示)これが出てきます。まずは、この情景を思い浮かべる、歌詞をじっくり味わう、そこから学習を始める工夫がされています。また、心の歌というマークがこういった日本の歌にはつけられています。次のページには「浜辺の歌」の楽譜が掲載されております。同じように「赤とんぼ」や「荒城の月」、「早春賦」があります。

○委員 ありがとうございました。

やっぱりそういう歌が心にしみて、日本のかつてからの童謡・唱歌がうんと心を育てるのではないかなと私いつも思っているのです。だから、そういうのが将来にわたって頭の片隅に残っていれば、癒やされるというか、日本人のかつての思いみたいなのが受け継がれていくのかなというふうな気がします。ありがとうございました。

○会長 はい、どうぞ、お願いします。

○委員 選定した理由の教材のよさで、1行目の歌唱や鑑賞の学習では、体験的活動とあるのです。特に今、コロナの時代でリコーダーも駄目、合唱も駄目となっているのですね。鑑賞をとなったときに、鑑賞の授業も中学で幾つか見たことあるのですけれども、この前のページの理由を見ても、このページ見ても、鑑賞での体験的活動というのは具体的な内容が目に浮かばないです。どういうことを指しているのかが1つ、2つ教えてください。

○音楽・器楽教科責任者 歌唱も鑑賞も共通した体験活動の一つといたしまして、指揮をしながら曲想をつかむことが盛り込まれております。鑑賞では、ボレロという曲は、小太鼓のリズムが非常に特徴的な曲です。ここでは曲を聴きながらリズム打ちをする体験的な活動が含まれております。

○委員 要するに鑑賞で自分でリズムを刻むというようなそういう体験だということでいいのですか。

○音楽・器楽教科責任者 はい。

○委員 分かりました。

○音楽・器楽教科責任者 はい。ありがとうございます。

○会長 よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○会長 では、ありがとうございました。

音楽の教科書、そして器楽の方も教育芸術社ということで選定をさせていただくということでよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いいたします。

〔挙手全員〕

○会長 全員の皆さんに挙手をいただきました。決定ということでお願いします。

ありがとうございました。

〔休 憩〕

○会長 ただいまから後半の部、始めさせていただきます。それでは、美術でございます。先生、よろしくお願ひします。

○美術教科責任者 よろしくお願ひします。

美術科の検定合格図書ですけれども、開隆堂、光村図書、日本文教出版の3社ということになります。調査の結果、日本文教出版の教科書を選定いたしました。資料の中では、「日文」と記しているものとなります。

調査表にも書かせていただきましたけれども、3社とも教科の目標を達成するために必要な内容が的確に盛られています。多くの写真や資料の掲載によりまして、個に応じた表現を助ける工夫がされていたり、また用具の使い方や安全面にも配慮されたりしており、分かりやすく作られていると感じました。

さらに、3社ともユニバーサルデザインにより、全ての生徒にとって読みやすいよう配慮もされておりました。本当にどの教科書も新学習指導要領の趣旨を踏まえた内容になっておりまして、よさがたくさんあります。どの教科書もとてもすばらしいのですけれども、ここでは日本文教出版を選定した理由として、4点お伝えをしようかと思います。

まず、大きい1つ目です。新学習指導要領で示されています育成する資質・能力、3つの柱に即した形で目標は設定されています。そして、造形的な視点の問いかけにより、主体的・対話的な学び、これは授業改善の視点として示されているのですけれども、主体的・対話的な学びが自然に生まれるように工夫されているということです。

3社を取り分けて比較をしてみたいかと思います。初めに、光村図書なのですけれども、どの教科書も初めのところに題材の目標というのが示されています。これは光村図書のものですが、どの題材でも、1つか2つの目標がこのように示されています。

続いて、選定した日文なのですけれども、これもどの題材の中でも目標が最初に示されています。（提示）この部分になります。光村図書では全ての題材で初めに1つから2つの目標、日文ではやはり全部の題材の初めのところに3つあります。新しい学習指導要領に示されています資質・能力の3つの柱、この3つの柱に準じる形で示されています。生徒と教科担任が学習指導要領で示される3つの資質・能力と、それぞれの題材の学びの目標とをしっかりと結びつけて捉えることができるということになっています。これについては、開隆堂もやはり同じように、3つの柱に準じる形で、対応する形で目標は示されております。

続いて、主体的・対話的な学びの仕掛け、これは今まず大きい1つ目をお伝えしている、その後半になるのですけれども、この主体的・対話的な学びの仕掛けとして、先ほどお伝えした題材の目標に向けた学習のポイントのようなものがどの社も書かれているのですけれども、光村を見てみたいと思います。（提示）ここが目標で、「鑑賞」、「表現」とあるのですが、この「鑑賞」と「表現」それぞれに光村では、そこに迫るための問い合わせがあるわけなのですが、「あなただったら何をどのように描きたいか考えよう」ですとか、「話し合ってみよう」というように、活動そのものが示されています。これは、開隆堂も同じになっています。開隆堂のものになりますが、（提示）この部分が学習のポイントとして「使われなくなったものを集めておこう」ですとか、「友達と話し合ってみよう」、このように何をしろということが指示してあるわけです。

今回、選定をした日本文教出版は、「造形的な視点」というのが示してあるのですけれども、（提示）、見ていただくと、何をしようということではなくて、「つやつやした感じや堅さなどはどこから感じるのだろうか」というように、問い合わせが全ての題材で書いてあります。なので、何をしろと言われてやることではなくて、思わず考えてしまう、思わずじっくり見てしまう、思わず誰かと意見を交換したくなってしまう、そういう主体的・対話的な学びが自然に発生するような工夫がされていると感じました。ここが一番大きなこの教科書がいいかなと思った理由となります。

続いて、2つ目ですけれども、多様な表現や発想、構想の方向が紹介されていて、生徒が思いを表現するために、自分で表現を工夫し生み出す深い学びにつながる工夫があるということです。

これは日文の墨で描く題材になりますけれども、例えば水墨画の技法としては、破墨法とか附立法のように名前のついた技法があるので、その技法1つずつ、この技法はこうだよということではなくて、いろんな表現とか道具も、筆ではなくて違う道具も画像として入っています。なので、教わった技法を用意された道具でなぞる、教わったとおりに表現する、そういうことに縛られないで、自由に自分は工夫していくのだ、では自分が表したいことに向けてどんな表現、どんな道具を使ってやろうかな、子供たちが自分で考える深い学びにつながる、そんな気持ちにさせてくれる資料がいっ

ぱい載っているということが2つ目ということになります。

3つ目ですけれども、1人で浸り込む写真と併せまして、友達と鑑賞し合ったり、意見交換をし合ったりという写真がとても多く載っているということです。他者と関わり合いながら、自己を深めていく、そういう学びを印象づけています。これについてはもちろん3社とも学び合う写真というのが掲載されているのですけれども、日本文教出版ではより多く、印象的に取り上げられています。

例えばなのですが、(提示)こんな感じで友達と一緒に話しながら、意見交換をしたり、鑑賞も一緒に見て、一人一人じっくり見たりしているのですが、友達と意見交換をする、そういう画像もしっかり掲載されています。

4つ目ですけれども、題材の紹介ですか作品の写真、主題のもち方などの工夫によって、新しい学習指導要領で大事にされている生活や社会、それから美術とのつながりが感じられるような工夫があるということです。また、他の会社は2分冊なのですが、日文は3分冊になっています。なので、生活や社会と美術とのつながりについても、それらを段階的に、発達段階に応じて学べるように配慮されているというところです。例えば模様の世界の題材で、模様を生かしてつくったトートバッグをただ並べて置いてあるのではなくて、実際に肩に背負っていたり、つくった花器に花が生けてあったり、お皿にいろんなものが乗っていたり、使っている様子が示されています。

また、2年生、3年生の段階に入ってくると、空港や避難誘導の標示ですか、あるいはユニバーサルデザインの手すりですか、あるいはパッケージデザイン、商品デザインにつながるような、そんな広く一般化したデザインのようなものも段階的に載っています。

最後には、美術を生かした職業についてもふれていて、生活や社会と美術の今自分たちが学んでいる美術はどういう意味があるのかということを段階的に示しているところで、日文を選びました。

以上になります。

○会長 ありがとうございました。

それでは、御意見、御質問ということで承ります。いかがでしょう。

お願いします。

○委員 主体的な学びということですね。目標を掲げたり学びの視点をこうやって、造形の視点ですか、明らかにするということはとてもいいなというふうに思いました。

最後の振り返りとかまとめという部分では、美術は教科書の中でこんな活動をというような、そんな工夫はあるのですか。

○美術教科責任者 これもどの会社でも言えることなのですけれども、最初に例えば導入の鑑賞をやって、途中で制作をして、また鑑賞に返る。今度は人のものではなくて、自分たちの作品を使って鑑賞に入るということになっています。これについてはどの会社についても丁寧に扱われているところです。

○会長 他はいかがですか。

〔発言する者なし〕

○会長 それでは、美術につきましては、日本文教出版の教科書を選定するということでよろしいでしょうか。賛成の方、挙手をお願いしたいと思います。

〔挙手全員〕

○会長 ありがとうございます。全員の皆さんに手を挙げていただきました。

それでは、美術につきましては日本文教出版の教科書を選定するということでお願いをいたします。ありがとうございました。

○会長 御苦労さまでした。

では、技術・家庭科お願いいたします。

○技術・家庭教科責任者 よろしくお願いいたします。これから技術・家庭科、技術分野の説明をまずさせていただきたいと思います。

3社とも生徒の発達段階や生活実態等に配慮して、基礎的・基本的な知識、技術の確実の習得に重点を置き、深まりのある学習ができるように題材が配列されていると思われます。生徒の学習活動への配慮といった面から見ると、東京書籍では各編の配列が技術の原理・原則と仕組み、技術による問題解決、社会の発展と技術、こういう順番になっておりまして、見方・考え方の視点を生かして問題を見出し、解決できるように工夫されています。

3社とも挿絵、写真、図表、その他鮮明で、見出しやイラスト、マークによって学習の流れや関連性が分かりやすく示され、生徒が追究への意欲が持てるよう構成されています。とりわけ東京書籍では、これら挿絵、写真、図表、配色等が鮮明で大きさに無駄がなく、製作工程などは写真や図版を多く用いて示し、制作の流れが詳しく分かるよう配列されております。さらに、3社とも安全面など、実習中の安全な作業の方法や事故防止のポイントを安全マークの中で記しまして、安全面の配慮が適切になされております。

新学習指導要領では、主体的・対話的な深い学びを志向しております。東京書籍では、技能面だけに焦点化するのではなく、問題解決の過程に対して取り組んだ内容や新たな問題解決に向けての課題などを振り返ることができるようになっておりまして、今後につなげられるよう工夫されているといったところが大きな特徴かと思います。

教師の学習指導への配慮といった面では、東京書籍におきましては、各領域の初めに、小学校の学習や他教科との関連を意識した表記があり、カリキュラムマネジメントを意識したつくりになっております。また、新しく入ってきたプログラミング学習における双方向コンテンツの内容では、複数の題材を提示し、使用する言語も各内容に分けた例を示しております。

さて、題材ごとに考えてみよう、やってみよう、話し合ってみようと、学習への取り組み方が示さ

れていることや、話し合わせたい題材にはキャラクターを登場させるなどの工夫も見られておりま

す。東京書籍の第2章の末では、問題解決の評価、改善を示し、端緒において評価の活用、新たな課題へつながる工夫など、問題解決学習のまとめの機会を設けております。学習のまとめでは、知識、技能の確認とともに、思考・判断、表現に関わるまとめ、学びに向かう力と3つの評価の観点でまとめが構成されているということが、新しい学習指導要領に沿った編成と考えられるところであります。

全体を通して3社とも制作することの喜びや技術の最適化を学ぶということのよさを実感できるように工夫されていますが、特に東京書籍におきましては、長野県の学校で取り組んでいる題材を多く取り入れ、制作、実習の際のつまずきを写真や図で示すなど、円滑に学習できるように工夫されているということで、よりよい指導が期待されるところであります。

選定した理由でございますけれども、3年間にわたる技術分野学習の見通しを持てるように、ガイドンスでは豊富な写真、資料を掲載し、2時間ごとに使われている技術を紹介するなど、構成が工夫されているといった点、1つの編が導入、基本ページ、まとめで構成されていることに加え、視覚的に見やすく分かりやすく豊富な原寸大の写真、イラスト、図表が適切に配置されているということによって、新しい学習指導要領で目指す主体的・対話的で深い学びの実現を可能としていること、また初めて教員になったり、本教科の担当となったりした場合でも、教科書に沿って指導することで、技術の最適化を窓口として、教科の狙いを外すことなく指導できるような一貫した構成となっている。

さらに、技術の見方・考え方を働きかせ、生活における課題解決のための制作学習となっているということから、深い学びの実現が期待できると考えられます。

以上、技術分野でございます。

それでは、続けて家庭分野の発表をさせていただきたいと思います。

3社とも教科の目標や内容を的確に捉え、自ら課題を持ち、生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を育てられるよう構成されております。生徒の学習活動への配慮といった面では、3社とも身近な生活の問題から、実態に応じて選択できる実習や事例を幅広く取上げ、興味・関心を持って生活を実感的に捉えられるよう配慮されております。さらに、衣食住に関する基礎的・基本的な内容が生徒の発達段階や生活実態などに配慮して題材が配列されております。

また、3社とも安全面や衛生面での配慮が必要な場面では、安全マーク、衛生マークなどを駆使し、注意が喚起されるよう工夫されております。特に東京書籍では、ガイドンス的内容が充実されておりまして、3年間を見通しを持って学習できるように工夫されております。また、1学年で衣食住と自立に関わる学習を多くの学校で行っているという実態に応じて配列されております。

また、生徒が自らの生活を振り返り、課題を発見するための発問を吹き出しやガイドンスを多用して、自分の生活を振り返る場面や自分について考えられるように配慮されていることも大きな特徴と言えます。

各内容に関連した豊富な図案、イラスト、写真、折り込みページ等も豊富で分かりやすく、生徒が意欲的に学習できるよう配慮されております。

また、内容に関連した写真は、新しくかつ鮮明で、原寸大の写真、図表なども配置され、学習意欲を高められるよう工夫されております。

教師の指導といった面から見ると、3社とも写真やイラストを多く盛り込んで、技能が身につくよう工夫されております。また、学習の振り返り、学習のまとめ等で自己評価の観点を明確にして、学習の定着を図るよう工夫されております。特に東京書籍では、写真や図式が適切に盛り込まれ、とりわけ調理実習の場面では、手順や学習の流れが分かりやすく配置されており、IHなど新しい技術についても説明されたりしているなど、時代の流れに対応しております。

さらに、章の初め、まとめの部分で自立とチェック、考え方、話し合おう、振り返ろうの掲載がありまして、生徒が自分の生活を振り返り、主体的に判断して行動できるように配慮されております。

また、重要語句のキーワードチェック、基礎・技能ページ、実践的・体験的な学習内容を設けておりまして、基礎的・基本的な内容が確実に身につくような内容で構成されています。

全体的に見ますと、3社とも自分と家庭生活、さらには記録、社会生活との結びつきに目を向け、その中で問題を見つけ、解決していくことを学べるように工夫されておりますが、特に東京書籍では、多くの中学校で食生活の学習から始めるということの実態に沿っておりまして、衣食住の生活の学資からの配慮、配置は実態に合っておりまして、学習しやすい配列になっていると考えられます。また、ガイダンスの内容も充実しております。さらに、新しい内容についてもアプローチができるということです。

それでは、採用を考えている東京書籍のについてでございますけれども、3年間の家庭科学習の見通しが持ちやすくなるように、自立と共生を目指してとするガイダンスが見開きで構成されているということから、中学校へ入学した生徒の学習意欲の高まりが期待できるということ、多くの中学校において1学年で衣食住の生活に関わる学習を行っているという実態に応じて配列されているということから、生徒にとって分かりやすい構成だという点です。

さらに、分かりやすく使いやすい見開き構成で、実物大写真、図表など豊富に配置されています。折り込みページも充実しているということから、視覚的にも見やすく、生徒の学習意欲を深めるよう配置されていると考えられます。主体的・対話的で深い学びを実現するように、様々な場面で思考ツールが取り入れられているということで対話が助けられ、協働が促されるということが期待されるものであります。

技術分野と家庭分野とは同じ教科でありますので、同一の会社のものを使っていくことが子供たちにとっての学習に効果的と考えられます。

以上でございます。

○会長 ありがとうございました。

それでは、今、技術と家庭科、両方説明いただきました。御質問、御意見等ございますでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 技術の方のその上から2つ目のポツ、中点のところの主体的・対話的というところなのですが、この文章の内容ではつながらないですよ。家庭科の方はいいですけれども、要するに導入と基本とまとめがあれば、主体的・対話的で深い学びにつながる。加えて、写真とイラストと図表があれば、適切に配置されれば、主体的・対話的、そんなことあるわけないじゃない。家庭科の方はちゃんと、まとめの方の上から4つ、学びを実現すべく、様々な場面で思考ツールを取り入れることで、こう書いてあれば、これはつながるでしょう、当然。さっきの美術の方も参考にして、美術のところも非常に分かりやすく、指示ではなくて問い合わせがあれば、主体的・対話的な学びになると、非常に分かりやすかったです。この技術のこれでは、内容的におかしいと思います。表現変更というか、分かるように書いてください。

○会長 いいですか。他にはどうですか。

○委員 技術科の方で、今までやっぱりつくることが主体的な教科だったのですが、今は技術的な見方・考え方を使って、社会や生活の問題を解決する、そういう教科になってきていると思うのですが、そういう面で特徴的な問題解決、東書がすぐれているなという部分があれば教えていただければ。

○技術・家庭教科責任者 展開が生活の問題から、それを解決して改善していくための、例えば制作なら制作学習でありますし、プログラミングならプログラミング学習が全てそのような展開を取っていく点が東京書籍の特徴かなと思っております。

○会長 いいですか。どうぞ。

○委員 家庭科とか技術科は、数学や国語ができなくたってなんて言ってはいけないけれども、それよりも何よりも実際に暮らしていくのに一番大事な教科だと私は思っています。したがって、勉強したきりではなくて、実践するという、それを勉強したことをちゃんと自分がやるという、何せ朝飯も食べない、ごみ屋敷だというようなのがどうも分からない。そういうようにならないようにちゃんと衣食住、自分で、それでお金もらえば何でもみんなあるだけ使ってしまって、後困るというような、金銭の方面とか、技術・家庭科というのは本当に私、生活していく上でうんと大事な教科だと思っています。なので、いかに実践させるか、これを生かして、本当に基本的なことを勉強するのだと思います。ここに書かれているように。だから、やっぱりこの自己評価の観点だとか家庭生活に生かしていくとか、今ビニールだの何だのというのが問題になっていますよね、プラスチックとか。そういう社会生活とかの結びつきとか、そういうことについて、教科書には何か一文はありますか。

○技術・家庭教科責任者 現在の教科書は、そういう問題について、生活の問題について解決しているということについては、基本的に3社とも取り扱われております。

○委員 いる。

○技術・家庭教科責任者 はい。今、お話をありましたごみ屋敷だとかそういう具体的な扱いではな

いのですけれども……

○委員 そんなことはあまり関係ないけれども……

○技術・家庭教科責任者 リサイクルの社会であるということについては、はい。

○委員 どのぐらい扱っていますか。東京書籍でちょっと、提示してみて。

○技術・家庭教科責任者 今のお話、例えば学んだことを社会に生かしていくという点では、衣食住の全て、あるいは最近では消費、環境といったような点から、このように（提示）トピック的に扱われて、これもう教科書の最後の方になるのですけれども、今までの3年間で学んだことを最終的に自分たちがどう生きていくかというところにまとめというような形で取り扱って、中学校を卒業していくということでやっていかれるのではないかなど考えております。

○委員 はい、分かりました。

○会長 よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○会長 それでは、技術と家庭科につきましては、東京書籍の教科書を選定するということでよろしいですか。賛成の方は挙手をお願いしたいと思います。

〔挙手全員〕

○会長 全員の方に手を挙げていただきましたので、東京書籍の教科書を選定するということでお願いいたします。ありがとうございました。

○会長 御苦労さまでした。次に、保健体育についてお願いします。

○保健体育教科責任者 よろしくお願いします。保健体育であります。

保健体育では、それぞれの4社の比較をしていただきましたけれども、選定理由の資料のところをお読みいただくと分かると思うのですけれども、全社とも採択の基準は当然満たしているなというふうに評価したのですけれども、最終的には東京書籍、こちらの「新しい保健体育」、こちらを選定いたしました。理由としては、まず1時間の流れというのが本紙の見開き2ページで1単位時間という構成になっておりまして、非常に見やすい構成になっております。1時間の流れが見つかる、それから課題の解決、広げるという一連の流れで構成をされていて、生徒がより学習の流れが理解しやすく構成されているなということです。そういうことが主体的な学びにつながることと期待ができるのではないかと、こういう評価をいたしました。

特に広げるのところでは、1時間の学習のまとめであるとか知識の整理だけではなく、自分の生活に当てはめたり、さらに調べようというようなことを促す内容になっているところが非常によかったですかなと思います。

2点目としては、資料や統計等がより新しく、また掲載されている年度がより幅広く推移が分かるような構成がされているなど、こういう印象でした。

3つ目としては、学習内容に関連する動画等が約50個のコンテンツでのアクセスが二次元コード、QRコードで掲載されていて、今後のICT化への配慮が非常にされているなという印象でした。

それから、それぞれの章の扉の部分では、道徳科との関連、こういうものも示されていました、あるいはその他高校の学習内容や関連する偉人、そういうものの紹介等がされていて、生徒の考えを広げたり深めたり、そういうことが期待できるなど、こういうことも評価しました。こういうところから選定委員会としては、東京書籍を選定するということにいたしました。

以上です。

○会長 ありがとうございました。

それでは、保健体育につきまして御意見、御質問をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。お願いします。

○委員 学力と同様に体力面での課題というのが今、今日的な課題になっていると思うのですが、教科書でその克服とか解決のためにどういうような扱いをしているかとか、それに向かってどんなような流れをつくっていくのかというのが分かったら教えていただければ、体力も非常に課題が、日本の大きな課題だというふうに捉えているのですけれども。

○保健体育教科責任者 体育分野については、それぞれどの教科書会社も実際にする、見る、支えるというような観点で構成されているなというふうには思うのですけれども、実際には運動やスポーツの効果というような単元、それからその運動やスポーツの学び方、こういうものがしっかりと扱われております。また、安全面についても安全な行い方ということで、実際の体育の実技の授業、そういうところに生かされるような構成には……体育分野で言うと、例えば運動やスポーツの効果、こういう1時間があります。それから、体への効果、それから心への効果、それから社会性への効果、こういうようなところで扱われています。

それから、運動やスポーツの学び方、それから安全な行い方というようなものが掲載されております。これ各社とも同じように扱われてはいるのですけれども、こういうことで実際の体力、そういうものを理論的に学びながら学習を深めていくけるようなそういうことになっております。

以上です。

○会長 よろしいですか。

○委員 分かりました。

○会長 他にいかがでしょうか。

今御説明をいただいた④番のところ、扉の章では、ちょっとどうなのかわからないのですけれども、各章の扉の部分ということですか。

○保健体育教科責任者 そうですね。例えば体育編の第2章というところ、これが扉の章になっていますけれども、この章で学習をすること、それから高校で学習することはこういう内容だと、道徳で言うと、希望と勇気、克己と強い意識、こういう関連がありますという、それから人見絹枝さんです

と女性アスリートの先駆者、こういう偉人のこういうエピソード、こういうものが必ず各章の扉の最初のところに構成されていて、この構成が非常に分かりやすいと、例えば保健の第4章でいっても、この章で学習すること、高校で学習すること、道徳の教科との関連、それから偉人、がん免疫治療の道を開くという、こういうような、全てこういう構成になっているところが非常に評価が高かったところになります。

○会長 そうすると、この言葉の使い方なのだけれども、各章の扉の部分というのは、こういうふうになるのかなと思ったのだけれども、どうですか。

○保健体育教科責任者 そうです。各章の扉。

○会長 そうですね。では、そういうふうに、もしあれなら表現の修正をお願いします。

もう一個、今ちょっと説明をいただいたのですけれども、道徳の方の関係と結びつきみたいなものというのは、実際に先生、授業で扱えるの。

○保健体育教科責任者 そうですね。授業する方の先生方がそういう観点で結びつきをさせようということであれば、ここにも、教科書にも書いてあるとおり関連ということでは扱えるかと思うのですけれども、それがありきということではないかと思うのですけれども。

○会長 やっぱり保健も体育も全体感に立つと、こういうところの関係につながってくるのだというようなところをやると、子供たちの学ぶ意欲というのかな、物事に取り組む姿勢というのがうんと変わってくるのではないか。だから、体育そのものはあまり好きではないのだけれども、非常に興味のある学習ができるというのは、これすることによって、技能的な部分で得意ではなくても、学びを深めることができるのでないか、そのことから技能にも挑戦してもらえる、学習意欲、そういうものを高めていけるのではないかと思って、聞いたのですけれども、だからそういう意味合いでやっぱりむしろこの教科書は呼びかけていく必要があるのだろうと、こういうふうに使ってもらうと、子供たちに非常に効果的な指導ができますよというようなことになると思う。そんなことをちょっと思いました。

他にいかがですか。

それでは、保健体育関係の関係でありますけれども、東京書籍の教科書を選定するということでよろしいですか。賛成の方は挙手をお願いしたいと思いますが。

[挙手全員]

○会長 全員の皆さんに手を挙げていただきました。

それでは、保健体育につきましては、東京書籍の教科書を選定させていただきますが、よろしくお願いします。ありがとうございました。御苦労さまでした。

それでは、英語のほうを御発表いただきたいと思いますので、お願いします。

○英語教科責任者 着座にて失礼いたします。お願いいたします。

英語ですけれども、委員で検討した結果、推薦書としては、開隆堂の「Sunshine」を推薦したいというふうに思っております。

選定理由ですけれども、御覧ください。まず、最初に書かせていただいたように、基礎・基本の定着ということと、それから思考・表現という流れで学習を進めることができるように単元が構成されているということが一番の理由でございます。

画面をお願いいたします。(提示) 単元の一番に扉絵がございます。この扉絵を使いまして、ここに書かれているように、こういうようなリスニングを使ってですか、それからこの写真なんかを使いながら、教師と生徒がインテラクション、やり取りをしながらこの単元の内容、それから目的について、まず理解が図られるということがあります。

さらに、このように単元の目標が明確に書かれておりますので、子供たちと教師がこの目的の下、単元を進めていくというが共通理解が図られることがこの扉絵のよさかなというふうに思っております。この点につきまして、例えば今までの上小地区では東京書籍の「HORIZON」を使っておりましたけれども、同じように関係代名詞の単元でございますけれども、扉絵はあるのですけれども、クエスチョンがここに1つ書かれているわけですが、このクエスチョンが1個ということで、やり取りが、広がりの欠如が懸念されるかなということがあります。

併せて、委員の中で検討に上がった三省堂ですけれども、三省堂の場合は、同じように扉絵があるわけですが、目的が書かれておりません。同じようにクエスチョンはあるのですけれども、目的の記述がなく、一番下に、この単元の活動が書かれているので、そういう意味では目的が何なのかなということが少しばやけてしまうということが懸念されます。

続いて、単元はScenesというもので構成されています。このような形で、漫画のような画面構成を通してながら、その表現が使われる場面や目的や状況を理解しながら表現が学べる点がございます。この点につきまして、例えば三省堂は、最初のところですけれども、このように文法事項に焦点を当てられて書かれておりますので、今までの教科書と同じような内容になっておりますけれども、言葉で言うと、文法の内容を中心に授業を進めていくということがちょっとまだ見受けられるのですが、小学校との学びの接続を考えた場合、小学校は場面や状況で表現を学んできますので、そういう意味では、このような場面や状況を子供たちと一緒に表現を学ぶということは、小中の学びの接続でもあるかなというふうに思っております。ですので、学び方としては、小学校の学び方を引き続き中でも大事にできるかなと思っています。

ただ、中学校では体系的に内容を学んでいかなければいけませんので、この教科書の今言った文法の内容というのはまとめはないわけですが、単元の一番後ろへ行きますと、英語の仕組みということで、英語の仕組みについてきちんと説明がされておりますので、単元を学んできた最後のところでしっかりと押さえながら、表現について定着をしていけるかなというふうに思っております。

続いて、単元はこのThinkという題材、内容に入っていきます。ここでは、Scenesとは

異なる場面、文脈の中で表現を学んでいきますので、より理解を図りながら自分の考えを深めていくということができます。そして、さらに今までには教科書にはなかなかなかったのですけれども、読む中で視点が与えられるわけですが、ここに、例えばこのページでは、この2つのQが与えられているわけですけれども、こここの「?」というマークがついているものには、事実を見つけるQではなくて、推論しながら読むという内容のクエスチョンになっています。ですので、子供たちは前後の文脈からこういうことが言えるのではないかという自分の考えを読み取った後に発表できるような、そんな工夫がQの中にはされています。

それから、一番大きな点でございますけれども、単元の章末にこのRetellという活動が仕組まれています。これは、単元で学んだ表現、例えばこの単元は、先ほど最初に見たように、チョコレートのことについて内容としては学んでいくところですので、このチョコレートの歴史や現状について学んだことを基に、自分の言葉で語っていくというそういう場面が仕組まれていますので、この場面を通すことで表現力をつけるとか、即興性をつけるとかというようなことも期待できるかなと思いますし、子供たちは、最終的にこの活動をしなければいけないということが目的とありますので、学んでいく過程でこれができるように授業をどうしていけばいいのかなということを考えながら子供たちが学んでいける、そんなことにもつながるのではないかというふうに思います。

そして、さらに単元の終わりには、Interactということで、今度はまた題材を変えて学習した表現を基に表現力をつけていくということが仕組まれています。例えば先ほど言ったように、ここ的目的は、自分の好きな人や物について具体的に表現する、意欲的に表現するというようなことが目的で設定されておりますので、単元の最後のInteractというところでは、人物のキャラクターを想定、スリーヒントクイズを出したり、自分の好きな人物について紹介したりするというようなことが仕組まれております。

それから、学期に1回ほどour projectという活動が仕組まれておりますけれども、学期のまとめとしてパフォーマンス評価というか、そういうものに近いものかなと思いますが、例えば3年生の1学期末では、our projectということで記者会見を開こうなんていうような活動が仕組まれておりますけれども、例えばその流れの過程でモデル会見を確認しましょうとか、本人のスピーチモデルを聞いてみようとか、読んでみようというようなことで、丁寧に進めていけるように、学期のまとめができるようになっています。これは、4ページ構成、1ページ、2ページ、3ページ、4ページ構成でこの単元のまとめの活動ができるようになっておりますので、本当に丁寧に行われています。

例えば三省堂ですと、同じような学期1回のものがプロジェクトということで設定されておりますが、三省堂の場合は、この2ページのみで、内容的には同じことをやるのですけれども、やはり丁寧さという点では、開隆堂の教科書が一番丁寧に進めていけるかなというように見えます。

それから、小学校との接続ということですけれども、ここにも書きましたように、各社フォントに

は工夫をされておるのですが、1年生の前半は小学校と同じフォント、後半は一般的な活字体に近いフォントを使用していくということで、だんだんに中学校の学習へと導かれるようになっておりますので、その点が工夫されている点かなと思いますし、あと単元にこのようにトライというようなものがついております。ここでは自分の大切な人について話そうということですが、小学校の5年生から教室で行われているスマートトークを中学校でも継続的に、このような話題を使いながら扱えるかなというふうに思います。

それから、高校への接続ということも配慮されておりまして、先ほどのところですけれども、各社工夫はされておるのですが、単元の中で読むことの指導といったときに、一遍に読むということも生徒には大切な活動ですが、題材のまとまりごとに段階的に読みながら、長い文章に慣れていくということがなされていますので、生徒にとっては読みやすくなるかなというふうに思います。

あと、特徴としては、今まで上小地区で使われている「HORIZON」、今年からこのようにA4判になりました。今までこのサイズでございます。これがA4判になったので、大分サイズが違うのですけれども、このサイズの違いでどのようなことが起きたかというと、例えば先ほど言ったように、これ開隆堂のページなのですけれども、(提示)このような、大体余白と文字と絵というような形で、このようにそんなにごみごみせずに見やすさが感じられるかなと思うのです。けれども、「HORIZON」はA4になったことで(提示)かなり情報量が多いです。ですので、すごく子供たちにとっては圧迫感を感じるというか、そのような感じになるのではないかなというふうに思っています。あわせて、字の大きさをちょっと見ていただければと思うのですけれども、(提示)こっちの方が開隆堂です。(提示)こっちが東書のですけれども、明らかに字の大きさが違いますので、やっぱり見やすさという点でも、せっかくA4にしたのに、もう少し大きくしてもとも思うのですが、情報量の多さというのと、練習活動の充実というのは裏側にあるのですが、やはりそこはちょっと見にくさがあるのでないかなというところで、このA4のよさ、それからマイナスの部分というところも感じながら見させていただきました。

私たちが大事にして考えたところは、新しい学習指導要領の趣旨に沿って、教師が子供たちに指導できるもの、それから子供たちが自ら考えて発信できるものというようなことを趣旨に踏まえて、開隆堂の教科書を推薦させていただければと思います。

ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

それでは、ただいまの発表に対しましての御意見、御質問ございましたらお願ひします。

はい、お願ひします。

○委員 先生、英語ふだん教えていらっしゃいますね。

○英語教科責任者 教頭ですので……

○委員 失礼しました。では、かつて教えられた。

○英語教科責任者 教えておりました。

○委員 選定した理由の4つ目のポツに、Rete 11というもの、私これがうんといいなと思っているのですが、何しろ日本人はしゃべれないと言われていますよね、いっぱい勉強した割に。だから、こういうので自分が表現をする、即興性を鍛えることが期待できるなんて書いてあるのですが、先生方は、その開隆堂でこれを教えればいいなという思うところはどこですか。

○英語教科責任者 今おっしゃっていただいたように、今までの反省点としては2つありますて、1つは、やはり先ほど言ったように文法から指導というのがやはり日本人が話せない、それから表現できないというもののマイナスの1つにあったと、もちろんいい面もあります。しっかりと理解して使うといういい面もあるのですが、そのマイナス点があったのではないかなどということで、先ほど御説明したように、場面から入るということがとてもいいと思います。

もう一つは、やはりどうしても否めないのは、一文一訳といいますか、英語一文読んだら、この訳どうというような、一文一訳の授業を今までしてきてしまった反省点があります。ただ、今求められているのはそういう力ではなくて、大事なところはどこかとか、自分の考えの基にするところはどこかというような読み取りをしながら、表現につなげていくということで考えますと、やはり今言ったRete 11という活動は本当にいい場面、これができるために教師も工夫しなければいけないし、子供たちも学んでいかなければいけないということは、とても大きな活動のよさかなというふうに私は思っております。

○委員 それは今までの「HORIZON」にはなかった。

○英語教科責任者 はい。「HORIZON」にはありませんでした。

○委員 分かりました。

○会長 はい、どうぞお願いします。

○委員 とても説得力のあるお話で大変よく分かりましたけれども、1つ目は、先ほどの話の中に系統的という話がありましたよね。小学校から中1はいいと思うのです。中1から中2になる。要するに中2や中3の子供たちは、この教科書に替えて、学習内容の系統的なものについては不安があるのかないのかということが1点。

それから、もう一つは非常に答えにくい質問なので、答えなくともいいのですけれども、これ今までずっと「NEW HORIZON」で来ていますよね。教科書を替えるってすごい変化なのですね。

○委員 すみません、関連して。

○会長 どうぞ。

○委員 去年小学校で採択されている教科書はどこの教科書なのか、東書ですか。

○委員 私もそこのところは同じ関連で、今回の選定で、現場の先生方が考えられて、教科書が替わるのが社会の歴史とこの英語の開隆堂なのです。今、下村委員や北沢委員と同じで、先生のお話の中

ではむしろ三省堂がちょっと候補に上がったみたいなのですけれども、この丸の多さからすると、光村も結構二重丸多いなと思いながら見たのですけれども、分かりました。

今、北沢委員の質問でわかったのですけれども、社会なんかは全部、地理、歴史、公民一遍に来ますのでいいですけれども、英語の教科書は、だから本当に1年なら1年でやって、2年生になって教科書変わったら、今まで東書だったけれども、今度は開隆堂になるということですね。

○英語教科責任者 はい。

○委員 その辺ちょっと基本的なことで分からなかったので、それで同じようなちょっと思いを持っています。

○英語教科責任者 1つ目の質問ですけれども、ちょっとコロナの関係で本当に先生たち、現在日々時数に追われながら授業をしてきているのですけれども、本来この1年間は、来年度からの移行に備えて、新たに付け加える部分も加えながら、本来今年度は指導していかなければいけません。ですので、本来はその指導ができていれば、新しい教科書になったとしても、学び方としては、今年の移行措置が十分できれば対応できるかなと思うのですが、ちょっとそこは心配なところでございます。

○会長 他にいかがですか。

小学校は東京書籍だから「NEW HORIZON」、その小中のつながりみたいなものは、特には会社変わっても関係ないの。

○英語教科責任者 私も説明したように、学び方というところでは、やっぱりこれが一番、小学校と同じように場面から入っていけるという、こういうところでは一番適切かなというふうには考えております。

○会長 教科書が替わるということは、先生方はまた新しい授業展開をそれに沿ってつくってくるのだけれども、成績も上げなければいけないというそういう裏腹もあるかなと思う、若干ね。変えた以上は責任持てというふうに地元の人間は思うわけです。

○英語教科責任者 そうですね。

○会長 これもプレッシャーかけるわけではないです。

はい、どうぞ。

○委員 英語のことよく分からなくて申し訳ないのですが、教えてもらいたいと思うのですが、国の大學生試の改革があって、混沌としていますよね。それが下りてくるのが高校入試ですよね。中学卒業すると高校入試を受けなくてはいけない。その国とかそういうところの動向に合っている教科書なのか、それをちょっとお聞きします。

○英語教科責任者 現在の長野県の高校入試でも、例えば書く活動では、以前はこの日本語に対してこういう表現を書きなさいというような、かつての入試というのはそうだったのですけれども、今はこういう場面だったらどういうふうにあなたは伝えますかというようなことを書くような内容にもなっておりまます。ですので、先ほど来から説明しているように、この場面だったらどういう表現を使え

ばいいか、この状況だったら、この目的だったらどうすればいいかというようなことが常に問題の中に含まれていますので、そういう意味では学び方や目標を共有して、場面や状況を理解しながら学んでいくという学び方のスタイルは、そういうところにも合致しているのではないかというふうに考えます。

○会長 よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○会長 それでは、また新たな挑戦になるかと思いますけれども、英語につきましては開隆堂の教科書を選定するということでよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いしたいと思います。

〔挙手全員〕

○会長 全員の皆さんに挙手をいただきました。

それでは、英語につきましては開隆堂の教科書を選定させていただくということで、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

○会長 道徳についてどうぞ、お願いします。

○道徳教科責任者 お願いいたします。中学校道徳では、メンバー5名で計4回会合を開き、検討をしてまいりました。中学校道徳では、光村図書「きみがいちばんひかるとき」を委員会として選定いたしました。よろしくお願ひいたします。

まず、教科書を開きたくなるような、読みたくなるような、持っていたくなるような、そして道徳の授業がやりたくなるような、語りたくなるような、そういう教科書であるか、生徒目線で考えてみました。

次に、主体的・対話的で深い学びの実現、多面的・多角的な見方・考え方ができるような工夫、配慮がされている教科書であるか、生徒と教師の目線で考えてみました。

1つ目です。3年間を見通した全体構成となっており、生徒の成長の過程、学校生活、教材と教材との関連性など工夫されています。シーズン1、2、3と分かれ、例えばシーズン1は、ちょうど3年生最後の部活が始まるということで、この背番号10という資料を持ってきてあります。これも3年生最後の部活ということで、これに関わった資料も、この後出てくるということで、わざわざそういう配置にしてあります。

2つ目です。「道徳の授業を始めよう」、こちらになります。こちらの「道徳の授業を始めよう」、のようなオリエンテーション的なものは他の教科書会社も出しています。しかし、この光村図書の方ですけれども、こちらはさらっとやるのではなく、きちんと1時間の最初の授業に位置づけてあります。その中で、道徳で何を学び、そしてどうやって学び、なぜ学ぶかを考えてから道徳の授業に入ることを大事にしています。ですので、35時間という時間の中で、その1時間を使って、ここをやって、やはりただ道徳の授業をやるだけではなくて、この道徳という目的、それぞれの学年で最初の

1時間はそのようなことをやります。このことが後の学びが深まる授業につながっていくのではないかなどということ、大事に考えているなということです。

3つ目です。発問についてです。発問は2つで構成されています。ちょっと見づらいかもしれません、「考え方」というところで2つありますが、どの教材についても1つは道徳的な問題を明らかにする問い、もう一つは、生徒の主体的な意見や自由な発想を大事にする配慮がされている、価値についての理解や自覚を深める問いとなっています。さらに、ここに「見方を変えて」と、この2つの発問とは違って、2つの発問が切り口を変えた発問となっています。これにおいて、生徒が多面的・多角的な見方や考え方ができるように、また我々教師も様々な発問も考えられるようにということになっております。指導書の方もA案、B案ということで、発問の方も流れも変えてあるという、そのような工夫がされています。自由度が高いのではないかなど、先生方もそのところでやりやすい部分もあるかなということです。

4つ目です。4つ目については、現代的な課題について、多様な教材が用意されています。例えばここです。特にいじめ問題、それと情報モラルについては、全学年に教材として位置づけてあり、日常の中で起こりそうな場面を取り上げて、自分との関わりの中で考えられる工夫がされています。また、SDGs（持続可能な開発目標）とか国際児童支援、ユニバーサルデザイン、AIなどの様々な現代的な課題を考える教材もそれぞれのところに入っています。

5つ目です。文字の大きさやフォント、色、配置などユニバーサルデザインにおいても全ての生徒が使いやすく、分かりやすく配慮されています。真っ白ではない目に優しい紙の色、こちらの光村図書の方は、他社は全て真っ白な紙なのですから、少しそれを抑えてある色で見やすいということ、それと読みやすいフォントがあり、教材の内容によってはフォントを変えています。例えば新聞記事の場合には、新聞記事と同じフォントにして資料、教材として出ています。また、縦書きだけではなくて、横書きの文章、そういう形を入れたりとか文字の大きさを変えたり、あと強調文字にしたりして、生徒が読みやすいように、かなり細かく配慮されているなということを思います。

6つ目です。これは、教材の内容によってダイナミックな写真、（提示）これはちょっと「ねぶた」資料ですが、両方のページにまたがってこのような形で、ところどころにこういうような美しい写真があります。もちろん文章からも感じることはあります。この写真からも生徒たちが「おおっ」というようなことがあるのではないかなどということで、他社はもう少し小さい写真が多いのですが、画面いっぱいに使った写真があります。あと漫画、（提示）このような漫画を入れたり、グラフ、それとポスター、ここから読み取っていく、そういうような工夫もされたりしています。それと、やはり壮大さ、先ほどもありましたけれども、ダイナミックさがすごくつながって、生徒たちはそれを基にいろんなことを、文字だけではなく写真とか挿絵から感じることができるのでないかなということになっています。

次に、7つ目です。主体的・対話的な学びを支え、誰もが学べる教科書ということで、デジタルコ

ンテンツも充実しています。教科書のところの文章の下にこういうようなQRコードが入っています。

(提示) こちら。それと、デジタル教科書については、音声朗読関連動画の再生、あと挿絵の文章の編集など、多岐にわたってかなりいろいろなことができるようになっています。今後、タブレット1人1台の時代になったときには、リモート学習や自宅での一人学習にも対応できるように考えてつながっていけるのかなと思っております。特にこの光村図書のところでは、朗読の読む方が声優さんで、例えばいろんな有名な漫画で出てくるような、実際に使っている先生方のところでは、その声を聞いたときに、生徒たちも「あっ、知ってる知ってる」というふうに一つの興味としてそういうこともあります。

8つ目です。小中の連携の視点において、各学年の補助教材として唯一この光村図書だけが小学校の定番教材を掲載しています。「泣いた赤鬼」、それと「はしのうえのおおかみ」、「手品師」、どこでも扱うような教材をもう一度中学校でということで、それらのものが入ってきてています。これによって生徒たちは改めて考えて語り合うこと、成長した今の自分を感じたり、さらに深めた自分へつながったりしていくのではないかなどということで、大変これは委員の中でもすごく大事にしたいなということです。

9つ目です。実は、菱田春草「落葉」、(提示) こちらの方ですけれども、信濃教育会の資料です。やはり他にも飯田市の中学校の「アンネのバラ」、それと野沢温泉村の「鳩車」、こちらの方も補助教材のところにちらっと出てきています。長野県のそういう地域教材もたくさんではないのですけれども、こうやって入ってきているということで、生徒たちも本当に、例えばこれを学習したときに美術館に行ってみるとか、もっと調べてみたいということにつながっていけるのかなと思います。

最後に、全体的にバランスが取れており、生徒が落ち着いて学習できるように配慮されていると感じました。また、見やすく、興味・関心が持てる工夫がされ、何をこの時間で学んでいくのか、内容項目を意識した教科書となっているように感じました。

以上のこと踏まえ、委員会として中学校道徳は光村図書の「きみがいちばんひかるとき」を選定いたしました。よろしくお願ひいたします。

○会長 ありがとうございました。

それでは、ただいまの御説明に対しまして、御意見、御質問ございますでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 選定のポツ2の質問のところですが、発問の構成が1つはこれこれ、もう一つはこれこれというふうに書かれてあって、これでいいのですが、その意味は分かるのですが、その前のページの教科の目標のところに書かれていることは、「道徳的価値の自覚が深められるように」が、一番の目標であるので、深められる問いと、それから主体的な発想を受けるというのでは何かちょっと弱いような感じがして、最初に道徳的価値についての自覚を深めるように、1つは、多面的・多角的な解決できるような発問にしたりというふうにこの目標のところは書かれています。どちらの方がいいかなとい

うか、前にページに書かれてある方がよく分かるかなというようなことを思ったのですが、いかがでしょうか。

○道徳教科責任者 そのとおりだと思いますが、前のページに書かれた方が、その方がすっきり伝わるような感じがします。

○会長 いいですよね。

他にいかがですか。

○委員 主体的・対話的、深い学びというところと道徳が今どうやって結びつくかというのは非常に悩んでいるのですが、どうも教科書の中に中心発問的なことを露骨に出していく会社が結構多いと思うのだよね。本当に子供たちがその資料を読んで、自分が背負って生きてきたものに照らして、僕はこう思うよというような、そういうものから出発していかないと、主体的・対話的な深い学びにつながっていくのではないかと、どうしても誘導してしまいます。そこが私、今の道徳教育もそうだし、道徳の教科書のちょっと嫌だなと思うところなのです。本当に子供たちの気持ちを酌み取りながらやっていく道徳が私いいと思うし、自分もそうしてきたので、そういう意味において、この各社の中で中心発問的なのをばんと出してしまった会社というのはどうですか。

○道徳教科責任者 結構どこにも載っているのですけれども、東京書籍なんかはちょっと少ない感じはしました。こちらも載っているのだけれども、幾つか選択肢が光村図書はあってという感じです。

○委員 それは、最終的には扱う教師側の問題だよね。分かりました。すみません。

○会長 はい、どうぞ。

○委員 今のに関わって、結論は、私は光村が圧倒的にいいと思います。それは、中学ではなくて小学校で、同じ、ここには教材と書いてあるけれども、同じ資料、同じ題材で各社、8社のものを比べたのですね、何年か前に。そうしたら、今峯村教育長さんが言われたように、どの会社もみんな発問はあるのですけれども、他の会社で強烈なのは、国語の教科書と同じような問い合わせになっている。何々するはどうしてかという発問になっているのです。よかつたのは光村と東書なのですけれども、小学校の教科書、やっぱり今もあったように、その人の行動とかその人の心情、特に行動面において、そこがどうしてなのだろうかという、要するに理由を問うているのではなくて、気持ちを問うているというのは、一番やっぱり光村はうまくできているなど、その2つの発問だけで授業をやれば、本当に授業は成り立つのだけれども、この発問でいいのだろうかというそういうところもありましたけれども、私は比較的、今の教育長さん言われている、自分でこの文章を読んで発問できるような、そういう工夫というか、しやすいなど、ぜひこの発問でやれというような雰囲気ではなかったような、そういう印象があります。

以上です。

○道徳教科責任者 ありがとうございました。

○会長 他にはどうですか。はい、どうぞ。

○委員 前のところを見ると、光村のいいところというのは、問題解決的な学習だとか体験的な学習を絡めて学習していくというところがあるかなというふうに思います。それがさっきのまとめのところでちょっと書かれていらないのはどうしてかなと、新しい学習指導要領でも学習項目の工夫ということで、そこはうんと大事にされている部分ではないかなというふうに思いますし、小学校は、東書なのですけれども、小学校の光村を読んでも、やっぱりそこはうんと大事にされているところかなと、そこが光村の一つの特徴ではないかなと私は思うのですが、いかがでしょうか。

○委員 最後のまとめの文章で1つだけ分からるのは、全体的にバランスが取れていると、何のことを言っているのか分からないです。全体的にバランスが取れるって、何と何とがバランスが取れるのか分からしないなという。

それから、ここに書いていないけれども、先ほど口頭での説明にもあったけれども、教科書ではないのだけれども、デジタルコンテンツのことについて結構お話しされたのです。そのことも、教科書ではないのだけれども、教科書に付随するデジタルコンテンツで、子供にとっては非常に活用できる場面とか、教師もそうですけれども、それについてもこの枠の中に1行に書いていいのではないかと思います。以上です。すみません。

○会長 はい、どうぞ。

○委員 長野県、信教がつくったのを載っけてもらっているもので、それで光村いいなと思ったのですけれども、1つ、さっき小中の連携ということがあったのですが、小学校の教材を改めて載せている。「はしのうえのおおかみ」って小学校の1年生の教材ですよね。中学生の教科書にそれどんなふうに載せているの。

○道徳教科責任者 (提示) こここのところで、例えば、ちょうどこれが中学1年生のところに載せるというのは、補助教材として載っけてあります。もしここのところで同じ内容項目とかそこのところで差し替えてやるのか、ちょっと時間をつくってやるのかですけれども、やはりこの発問を考える、中学生だったらという発問をまた考えてみて、小学生とまた違った中学生の何か自分の思いとか感じたことが出てくる、(提示) それはちょっとこんな感じです。最後のところ、一応例の発問がこここのところに「考えよう」があるのですけれども、ちょっと読みます。「熊に出会ったオオカミはどんなふうに変わったのだろう」、それと「オオカミが前よりずっといい気持ちになったのはどうしてだろう。オオカミは本当に変わることができたのだろうか」、絵もこれ多分1年生と同じ絵だと思うのですけれども、これをまた中学生でやったときに、また違う見方ができたりするのかなということで、「手品師」も、あと「泣いた赤鬼」も同じ形になっていました。

○委員 ありがとうございました。

○会長 よろしいですか。はい、どうぞ。

○委員 もう現場を離れて7年目になりますので、私たちの頃と今の現場の先生方、道徳というと、僕はその評価の問題というのが非常に苦労されているのかなと思うのです。今、この調査表の1と2

を見て比べながら、文章を見していくと、3番の学習姿勢の配慮の中の（2）、最後の文章だけですけれども、勇気づけられたり主体的に関わったりすることができる、工夫がされていると、それから（5）、自分が考えたり思ったりしたことや思いが変わっていく様子などを振り返られるようになっているというのは、こういうところが評価のところでは非常に先生方って役立つところがあるのかなと思うのですけれども、ただそこが光村のところの二重丸とか丸を見ると、実は一丸なのです。ですので、その評価のあたりとかで何か教科書の方の関連というか、選ぶときに光村がいいのだというのは、何かあったのかな、どうかなということで、ちょっとお聞きしたかったのです。

○道徳教科責任者 どこも大体同じなのですけれども、光村図書のところは、自分の学びの記録、これのよさもあるのです。実は、ここにあまりしっかりたくさん書くと、これで他に学習カードとか別冊のものを多分先生方使っていると思うので、これはこれで本当に簡単でいいのかなというふうに思うのですが、もし使わないとなると、ちょっとこれはやはり寂しい部分もあったり、評価するときどんなふうに使っていけばいいか、ちょっと中途半端的なところ、向こうのテキストもあったりこっちもあったりとなると、ちょっと使うときどういうふうに、両方書くというのも時間的に難しいだろうし、ただ、こっちはこっちで、ぱっと1枚で1年間、3枚で1年間の振り返りができるというよさもあるので、そこら辺のところが各社もそうなのですけれども、難しいところであります。評価のこと、これだけでいいのかどうかということも含めて、別冊を買えば、そこでしっかりとできると思いますけれども、すみません。

○会長 よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○会長 それでは、道徳に関わりましては、光村の教科書を選定するということでよろしいですか。賛成の方は挙手をお願いしたいと思います。

〔挙手全員〕

○会長 全員の方に挙手をいただきました。ありがとうございます。

それでは、道徳につきましては光村図書の教科書を選定するということで、よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

○会長 御苦労さまでした。

時間がかなり延びてしまいまして、申し訳ございません。皆様の協力で無事中学校の教科書について議事が終了いたしました。ありがとうございました。

以上で、上小地区において、令和3年度から使用する中学校の教科書についての選定が終了となります。調査研究委員長さん、また本日おいでにはなりませんけれども、各委員の皆さんにおかれましては、お忙しい中、本当に短い期間の間で調査研究を進めていただきまして、大変ありがとうございます。

ました。改めて感謝を申し上げます。

なお、令和3年度から使用する中学校の教科書につきましては、近日中に各市町村教育委員会に選定内容を通知していただきますので、それぞれの教育委員会において採択をお願いいたします。.

以上であります。長時間にわたり大変ありがとうございました。